

 住江織物株式会社

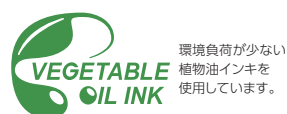
本書に関するお問い合わせ先

住江織物株式会社 CSR推進室
〒542-8504 大阪市中央区南船場3-11-20
TEL:06-6251-6817 FAX:06-6251-6806
E-Mail:csr@sin.suminoe.co.jp
URL <https://suminoe.co.jp/>

住江織物グループ
CSRレポート
2019



この冊子に使用している用紙は、世界の森林資源の責任ある利用を保証しています。



印刷工程で有害廃液を出さず、湿し水が不要な「水なし印刷方式」を採用しています。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



快適な空間と彩りのある暮らしを

住江織物グループは136年にわたって常に社会のニーズを探り、よりよい製品づくりに努めてまいりました。これからもテキスタイルメーカーとして、最先端の空間づくりに挑戦し続けます。

編集方針

本レポートは、あらゆるステークホルダーのみなさまに、当社グループが目指す経営戦略や事業・CSR活動の報告を通じて、総合的に当社グループへの理解を深めていただくことを目的として発行しています。

報告対象期間

2018年度(2018年6月～2019年5月)
但し、一部対象期間外の活動も含みます。

報告対象範囲

住江織物(株)ならびに国内外の連結対象子会社
但し、項目により対象範囲が異なります。

参考としたガイドライン

ISO26000(社会的責任に関する手引き)

発行年月

2019年12月(次回発行予定2020年12月)

目次

編集方針・目次	1	社会への取り組み	
トップメッセージ	3	従業員の成長と活躍	25
住江織物グループについて		お客様への価値創造	
事業セグメント別概況・成長戦略	5	「モノづくり」を通じた環境、社会への貢献	29
事業とグローバル拠点	7	顧客満足のさらなる向上(各部門納入実績)	31
特集		地域社会とのコミュニケーション(社会貢献活動)	35
1 住江織物グループとSDGs	9	環境への取り組み	
2 グローバル展開 海外事業所紹介	13	環境マネジメント～KKR+Aのテーマのもとに	36
成長を支える基盤		第5次中期行動目標-エコチャレンジ2020-	38
CSRへの取り組み		エコチャレンジ2020(2018年度実績)	39
住江織物グループの経営理念とCSRの体系	15	コラム／編集後記	42
2018年度のCSR活動実績	17		
ガバナンスの強化			
コーポレートガバナンス	19		
コンプライアンスの徹底	21		
リスクマネジメント	23		

持続可能な社会に 応え続ける企業を追求します。



はじめに

2019年5月、新たな時代「令和」がスタートしました。当社グループは、明治の創業時から人々が集う住まいや室内空間、車内空間などを快適にし、暮らしに彩りを添えてまいりました。幕を開けた令和の時代も、そしてその先々においても、当社は事業の成長と、持続可能な社会への貢献を目指してまいります。

中期3ヵ年経営計画「2020」の進捗について

2017年6月から第5次中期3ヵ年経営計画「2020」をスタートし、「企業ガバナンスの再構築」と「事業の成長」のテーマのもと、諸施策を推進しております。

企業ガバナンスの再構築

引き続きコンプライアンス遵守ならびに管理体制の見直しのため、経営幹部と従業員の双方向コミュニケーションを図っております。また、収支や在庫をタイムリーに把握して経営判断に活かし、効率的かつ効果的なモニタリングを行うべく、グローバルで基幹システムの再構築を進めております。今後、システム再構築の第一段階で得られた知見をもとに各部門の実態に即した改善を行い、全社へ本格的に展開していきます。

2019年7月には、取締役会の諮問機関として「指名・報酬委員会」を設置しました。取締役会の指名や報酬などに

関する評価・決定プロセスを透明化・客観化することで監督機能の強化を図り、コーポレートガバナンス体制をより一層充実させてまいります。

事業の成長

お客様のニーズに柔軟かつタイムリーに応えるべく、「取扱い商材の拡大」「グローバル化の強化」「高付加価値商材の開発・販売」の3つの軸で果敢にチャレンジしております。

「取扱い商材の拡大」では、自動車内装材における新素材のシート地の提案や、インテリア事業では、本物の木材や石材のような外観の硬質床材など、従来のファブリックの枠を超えた高機能商材を拡充しております。また、「高付加価値商材の開発・販売」では、開発担当と営業担当による新規商材開発会議に加え、先端分野の展示会などにも積極的に出展し、外部機関との共同研究を加速させるなど、オープンイノベーションを活用しながら商品化に注力しております。

社会のニーズへの対応

「企業は社会の公器」と言われるように、企業はいつの時代も社会に役立ち、社会が価値を認める存在でなければなりません。明治の創業当時、当社は帝国議会議事堂や鉄道といった社会の近代化のニーズに応える形でビジネスを開始しました。その後も、時代のニーズを先んじて捉えつつ、世の中の動いていく方向へ軸足を置いて事業を拡大してきました。

現在では、投資家が投資先企業を選ぶ際の新たな指標としてESG(環境・社会・ガバナンス)への注目が高まっています。また、パリ協定やSDGs(持続可能な開発目標)が採択されるなど、世界が大きく動き出していますが、当社グループは20年以上前から環境商材の拡販や健康分野に貢献する技術開発に取り組んでおり、高まる環境対策や持続可能な社会に対するニーズに応えております。例えば、2011年に発売した当社の主力商品である水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®(エコス)」では、従来埋め立て処分するしかなかった使用済みタイルカーペットから新しいタイルカーペットの原料を生み出し、同一商品間でのリサイクルを実現することで、世界でも類を見ない最大84%という高い再生材比率を達成しております。ECOS®は、これまでに経営基盤として培ってきた「K(健康)K(環境)R(リサイクル)+A(アメニティ:快適さ)」の理念のもとに結実したエコ商品であり、SDGsの目標のひとつである「つくる責任 つかう責任」に合うものです。

今後も常に社会のニーズを探り、よりよい製品づくりに努めてまいります。

人的パワーの最大化への取り組み

今後50年、100年と当社が変革し、成長していくために人材育成は欠かせません。日本では人材不足、子育てや介護による離職が問題化してきていますが、社員を守るのは会社の責任でもあります。当社グループでは性別・年齢・国籍を

超えて多様な人材がいきいきと活躍できる環境をつくることに注力するとともに、30代、40代を中心としたミドル層のレベルアップを重点的にを行い、次代を担う人材づくりを進めております。また、働き方改革の一環として、ITによる効率化の推進や、ワークライフバランスの実現に努めております。

外部コミュニケーションの促進

企業活動を進める上で、ステークホルダーのみなさまからの「信頼」を最も大切に考えており、当社グループについてよりご理解いただけるよう外部コミュニケーションの促進を図っております。2019年には、これまでより情報を充実させることを目的に、住江織物グループ各社のホームページを刷新しました。また、2019年4月から大阪、東京のショールームにて、「住江織物株式会社 鉄道車両内装の歴史展」を開催しております。

ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションを積極的に行い、当社グループについてのご理解を得るとともに、様々な価値を提供することでよりよい関係を築いていきたいと考えております。

時代によって求められる「快適さ」や「暮らし」の姿は変わります。いつの時代でもそれらを追求し、実現してまいります。

2019年12月

住江織物株式会社
代表取締役会長兼社長

吉川 一三

環境にやさしく、デザインと機能を兼ね備えたモノづくりで、豊かな暮らしに貢献します。

自動車内装事業

グローバルサプライヤー

自動車内装材の足元から天井まで

天井材、シート表皮材、カーマット、フロアカーペットなど、足元から天井まで自動車内装材をトータルで供給できるのが当社の最大の特長です。日本国内だけでなく、米国、メキシコ、中国、タイ、インドネシア、インドの海外6ヵ国12拠点に製造・販売拠点が、世界最適供給体制を構築しています。

今後の方針・成長戦略

シート表皮材では新素材での提案を積極的に行うとともに、当社が今まで取り扱っていなかった部位を繊維素材化することで、製品の供給範囲を拡げ、トータルサプライヤーとしてビジネスの多角化を進めています。

- ① 新規商材・新規部位の販路拡大。
- ② QCD(品質・価格・供給)の充実。
- ③ 基幹システムの整備による生産性の向上。
- ④ グローバル化の強化に向けての人材育成の確立。

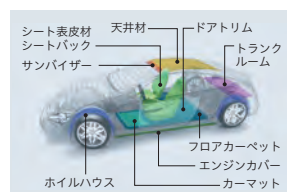


シート表皮材



フロアカーペット

カーマット



車両内装事業(鉄道・バス・船舶)

安全で快適な車両づくり

内装材をトータルで提案

JR、私鉄、公営交通に納入し、1世紀以上にわたりトップシェアを誇っています。

現在では、新幹線、電車、バス、船舶などの公共交通機関に、シート表皮材やカーテン、壁装材、床材に至るまで内装材をトータルで提案し、安全性・環境性に優れたシートクッション材「スミキューブ®」など環境にやさしい製品を納入しています。

今後の方針・成長戦略

基盤となる繊維商材にとどまらず、樹脂部材を含む内装部材全般までご提案できる体制を構築します。

- ① バス用内装材のシェア拡大、新商材の開発・拡販。
- ② 鉄道向けクッション材の拡販、生産拠点の増強。
- ③ 安全対策商材(高耐久表示フィルムなど)の販路拡大。

鉄道
内装材



バス
内装材



船舶
内装材



インテリア事業

世界最高水準の環境対応商品

独自の技術開発力での商品づくりを実現

公共施設、ホテル、学校、病院、オフィスから、一般家庭に至るまで、デザイン性と機能性を備えたインテリア商品を幅広く提供しています。

また、K(健康)K(環境)R(リサイクル)+A(アメニティ:快適さ)のテーマのもと、環境にやさしい商品づくりに取り組んでいます。

今後の方針・成長戦略

「環境対策に強いスミノエ」と「オンリーワン商品の開発」を基本方針にブランド事業の拡大を図っていきます。

- ① 高機能で高品質な硬質床材[LVT]や、耐久性に優れた塩ビ織物床材「2tec2」などの新商品の販売強化。
- ② 機能性を充実した「HOME®」シリーズの販売強化。
- ③ オーダーカーテン「mode S®」「U Life®」の販売強化。
- ④ 人気の「DESIGN LIFE®」「Disneyホームシリーズ」の拡販。

オフィス
ビル・
商業施設



タイルカーペット



BERRY ALLOC® PURE LVT

ホテル・
ホール・
会館



絨通



絨帳



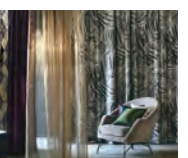
美術工芸品

コインパース・
カードホルダー

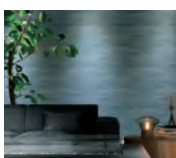
住 宅



ラグ・マット



カーテン



壁紙、襖紙

機能資材事業

新規分野へ機能性資材の展開

無限の事業可能性を追求

トリプルフレッシュ®消臭フィルターやオレフィン素材による浴室床材など、これまで当社が培ってきた独自技術に応用した商品展開のみならず、K(健康)K(環境)R(リサイクル)+A(アメニティ:快適さ)のテーマのもと、バイオテクノロジーに基づく機能性原料(スミノエバイオテック®)や機能性食品の展開といった分野でも新しい価値を提供しています。

今後の方針・成長戦略

創意工夫、営業開発力を磨き、商品の価値向上、事業拡大を図っていきます。

- ① ホットカーペットの生産供給体制の強化、小物家電、健康家電など、新たな家電商品の開発推進。
- ② 独自の加工技術や機能資材を用いた用途開発。
- ③ 浴室床材の供給販売体制と品質の強化。
- ④ 消臭・フィルター事業の開発営業強化、様々なジャンルでの拡販。
- ⑤ サプリメント「柿ダノミ®」のネット・店頭販路拡大、新たな機能性食品の開発。
- ⑥ 航空機事業では、国際競争力のある新たな商品開発推進。
- ⑦ スマートテキスタイルの事業化の推進。



航空機内装材

柿ポリフェノール
サプリメント

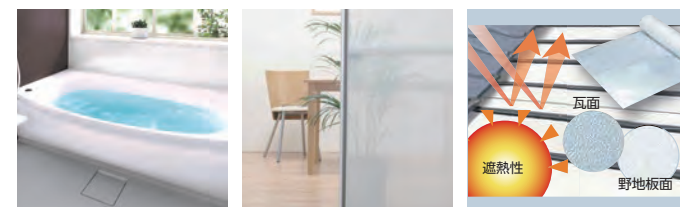
スミノエバイオテック®



Tispaシリーズ
「香りでごまかさない本当の消臭」

ホットカーペット

空気清浄機用
消臭フィルター



浴室床材

クロスキャビン®

ルーフィング材

世界に広がる住江織物グループ

研究・技術開発、製造、販売、各エキスパートが緊密に連携し、グループの持つ力を最大限に活かす —
これが住江織物グループの最大の強みです。

インテリア事業 自動車内装事業 車両内装事業 機能資材事業 美術工芸織物

中国



従業員数(グループ全体)

2,899人

グループ会社

24社

資本金

95億円

海外拠点

6カ国 13拠点

自己資本比率

34.8%

海外売上高比率

33%

インド



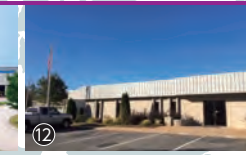
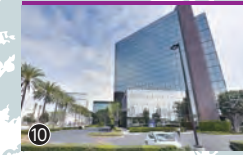
タイ



インドネシア



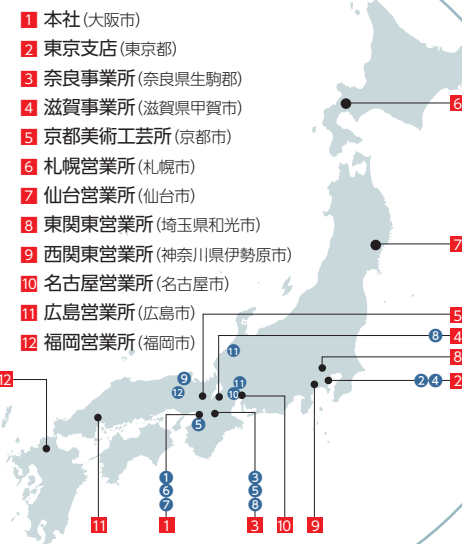
アメリカ



メキシコ



住江織物(株)の事業所



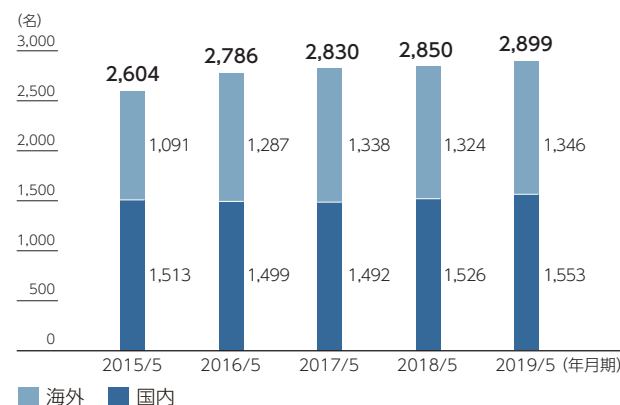
主要国内グループ会社(本社)

- ① (株)スミノエ(大阪市) カーペット、カーテンを中心としたインテリア製品の企画・販売
- ② ルノン(株)(東京都) 壁紙を中心としたインテリア製品の企画・販売
- ③ 住江物流(株)(奈良県生駒郡) 製品の保管・荷役・加工・配送手配
- ④ (株)スミノエワークス(東京都) インテリア製品の施工
- ⑤ 関西ラボラトリー(株) 試験・検査業務
大阪ラボ(大阪府松原市)
奈良ラボ(奈良県生駒郡)
- ⑥ スミノエ テイジン テクノ(株)(大阪市) シート表皮材を中心とした自動車内装材の製造・販売
- ⑦ 丸中装束(株)(大阪市) 車両内装材の卸業
- ⑧ 住江テクノ(株) カーペットの製造・加工、
長繊維紡糸(リサイクル含む)
およびニードルパンチカーペットの製造・販売
滋賀工場(滋賀県甲賀市)
奈良工場(奈良県生駒郡)
- ⑨ 丹後テクスタイル(株)(京都府京丹後市) 絨帳、絨通、ラグマットの製造・販売
- ⑩ 帝人テクロス(株)(愛知県稲沢市) 自動車用シート表皮材、椅子張地、
衣料用生地等の製造・販売
- ⑪ 尾張整染(株) 自動車用シート表皮材、
インテリア用生地の色調整加工
本社(愛知県一宮市)
石川工場(石川県能美市)
- ⑫ (株)ソーイング兵庫(兵庫県丹波市) ファブリック製品の縫製加工

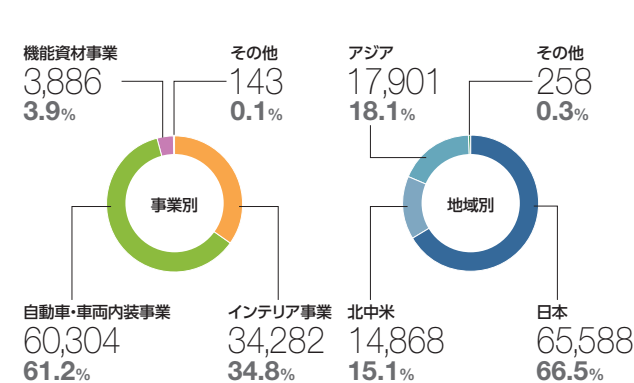
会社概要 (2019年5月31日現在)

会社名	住江織物株式会社 Suminoe Textile Co., Ltd.
本社所在地	〒542-8504 大阪市中央区南船場三丁目11番20号
創業	1883年(明治16年)
合資会社創立	1913年(大正2年12月25日) 住江織物合資会社
株式会社設立	1930年(昭和5年12月26日) 住江織物株式会社
資本金	95億5千4百万円
従業員数	260名(連結グループ2,899名)

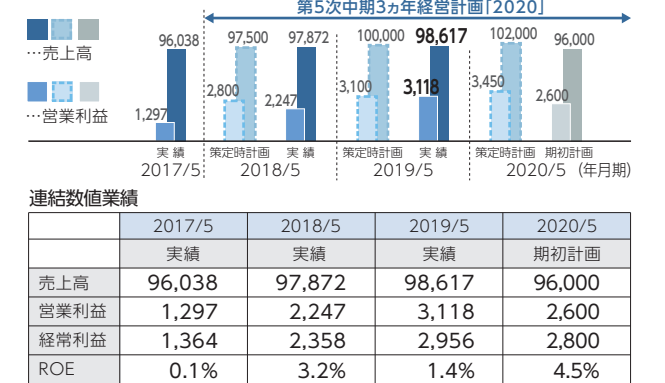
グループ人員の推移



売上高構成比 (2019年5月期)



連結数値計画・実績 (単位:百万円)



住江織物グループとSDGs Sustainable Development Goals

持続可能な開発目標 (SDGs)

2015年9月国連サミットで採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、2016年から2030年までにグローバルレベルでの達成を目指す17の国際目標および169のターゲットが示されています。

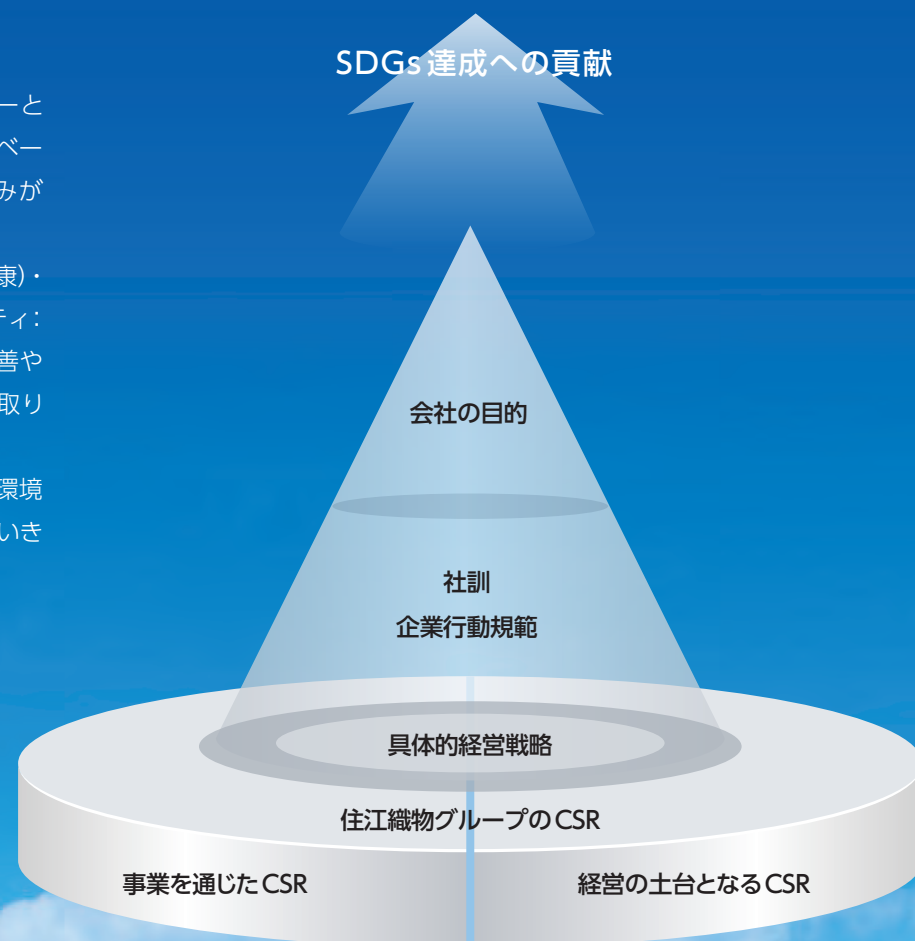


SDGsの達成に向けた住江織物グループの取り組み

SDGsで、企業は、重要なパートナーとして位置づけられており、創造性やイノベーションを活用した課題解決への取り組みが求められています。

住江織物グループは、これまでK(健康)・K(環境)・R(リサイクル)+A(アメニティ：快適さ)の基本理念のもと、室内環境改善や環境負荷の低減など、環境保全への取り組みを続けてきました。

今後もSDGsを重要課題として捉え、環境をはじめとする様々な課題に取り組んでいきます。



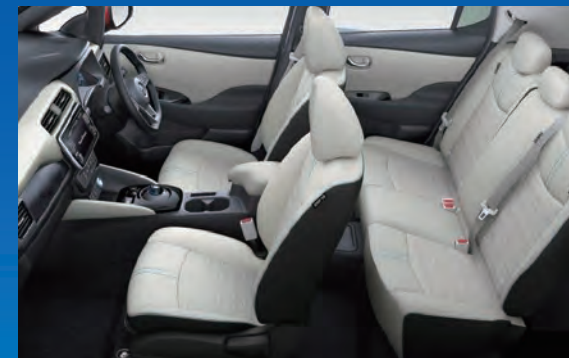
1 植物の力で省資源に貢献



植物由来シート表皮材「バイオウブン/バイオフラット」

バイオウブン/バイオフラットは、植物由来ポリエステル材料(植物度30%)からなるシート表皮材です。多くの環境問題を引き起こすことが懸念されている化石燃料の使用を抑えることで、環境負荷の低減に貢献しています。ほかのバイオ由来繊維より生産性・コストの面でも優れていると同時に、石油由来ポリエステル材料を用いたシート表皮材と同様の性能を有していることから意匠や風合いの再現が可能です。

日産自動車(株)「LEAF(リーフ)」のG/Xグレードにご採用いただきました。



埼玉新都心交通2020系、2000系

2 車内環境の快適さと安全性への配慮



鉄道車両用シートクッション材「スミキューブ®/ハイブリッドクッション材」

「スミキューブ®」は、燃焼時にシアンガスなどの有毒ガスが発生しない安全な素材で製造されており、焼却処分時に大気を汚染しない環境にやさしい商品です。また、スミキューブ®に新樹脂バネ材「スミキューブエアー」を組み合わせた「ハイブリッドクッション材」は、より座り心地や安全性・通気性・耐久性に優れています。

JR・私鉄・公営地下鉄の車両や、より高度な快適性が要求される特急・新幹線の車両などで幅広く使用されており、人々の快適な公共交通機関の利用に役立っています。



JR東日本新型通勤電車 E235系(山手線)

シートクッション材「スミキューブ®」



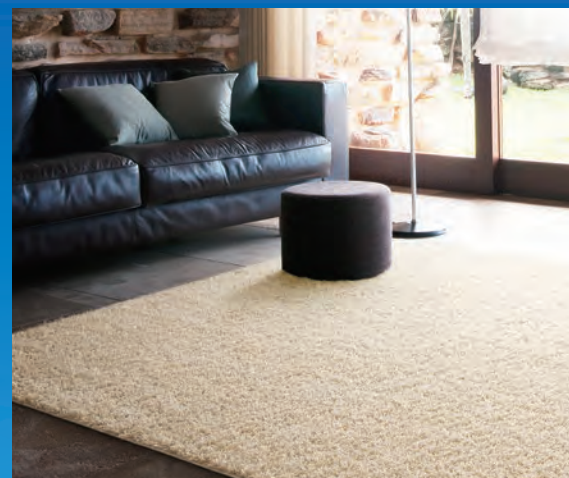
3 ペットボトルからつくった環境にやさしい糸



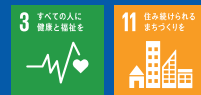
ポリエステル長繊維「スミロン®」

使用済みペットボトルから再生したポリエステルチップを50%以上使用してつくられたリサイクル繊維で、省資源化に貢献しています。インテリア・自動車内装材・機能資材など幅広い分野の商品に使用されています。

また、ポリエステル糸は汚れにくく、原料着色系なので耐候・耐熱性に優れており、製品の長期利用が可能となります。着色過程においても染色排水が出ない着色方法を採用し、水質汚染に配慮しています。



4 高い消臭性能でいつも清潔な空気を



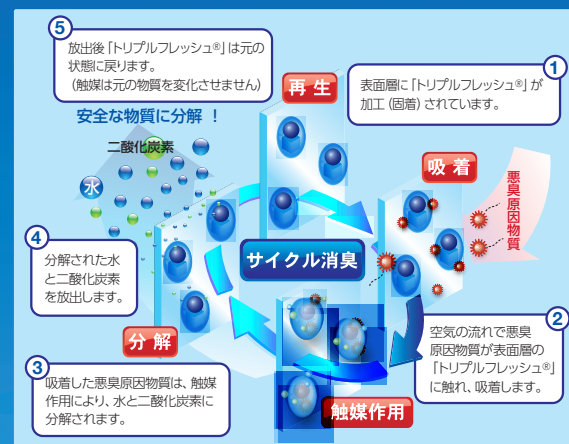
空気を洗う壁紙®「オレフィンプラス」

環境に配慮したチップ状オレフィンプラスチックのリサイクル素材を表面に加工した新しいサイクル消臭壁紙で、臭いの原因物質12種類を消臭する「トリプルフレッシュ®」プラス消臭剤をコーティングしています。タバコ・トイレの臭い、生活臭・加齢臭なども高い消臭性能により吸着・分解し、室内の空気環境を改善することで人々の健康や快適な暮らしに貢献しています。

また、独特の凹凸による陰影が照明による反射光沢を抑え、落ち着いた雰囲気の内装に仕上げます。

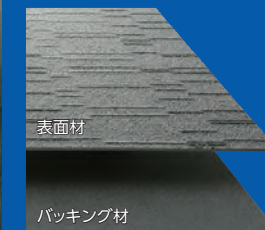


写真は空気を洗う壁紙の施工イメージです。



ECOS Recycle System Double Recycle

表面のパイル材には、使用済みペットボトルを原料とする再生ポリエステル「スミロン」を採用しました。



表面材、パッキング材の両方にリサイクル材を使用。

5 資源を未来へ



水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®」

従来廃棄していた使用済みタイルカーペットから再び新たなタイルカーペットを生み出すシステムを構築することで、廃棄物の削減や資源の循環を実現しています。市場に流通する従来品のほとんどは、再生材比率が約25～40%ほどでしたが、それを大きく上回る最大84% (ECOS®iD-8100の場合) を達成しました。また、由来が特定できない再生材も多く存在するなか、裏材(パッキング材)の再生材を使用済みタイルカーペットのみに限定し、材料の由来を明確に管理、安全性を確保しています。

スミロン®を用いた「SG-500」は、当社従来品からCO₂排出量を43%削減。さらに製品重量も約5%軽量化し、運搬・運送時の負荷を抑えました。

6 暮らしに役立つ機能性商品



家庭用消臭剤「香りでごまかさない本当の消臭」

家庭用脱臭・消臭剤 Tispa シリーズ「香りでごまかさない本当の消臭」は、インテリア製品やホテル・自動車・航空機の内装にも多数採用されている消臭加工技術「トリプルフレッシュ®」を使用した商品です。電気を使わずゼロエネルギーで長時間のサイクル消臭を実現しています。



詳細はこちら

飲む人にオススメ！奈良県産柿渋含有サプリ「柿ダノミ®」

「柿ダノミ®」は、奈良県産の柿から特許製法により抽出した柿ポリフェノールを含有するサプリメントです。平成28年度奈良県「高付加価値獲得支援補助金・ご当地食品開発事業」に採択され、近畿大学との共同研究により開発しました。ヒト臨床実験も実施しており、安全性と健康食品(一般食品)としての高い評価を確認し、人々の健康に寄与しています。



詳細はこちら

Thailand

アユタヤ県
バンコク



2 特集 グローバル展開

海外事業所紹介:タイ T.C.H. Suminoe Co., Ltd.

自動車内装事業では、海外6ヵ国12拠点に製造・販売拠点を持ち、自動車内装材全般を供給しています。お客様のニーズに応えるため、日本で培ったモノづくりと管理のノウハウを各拠点へ展開し、迅速かつ安定的に当社商品を納入しています。また、拠点において、地域の経済発展と雇用促進にも貢献しています。

自動車内装事業における各部門の海外展開について

ファブリック部門

2009年12月 帝人ファイバー株式会社とともに当社の子会社としてスミノエ テイジン テクノ株式会社を設立。素材から編織加工、および提案から販売まで一貫する体制を構築しました。

以降、海外拠点にも同様のシステムを導入することで、国内外のグループでの強みを発揮しています。近年、素材としてカラー原着糸の使用が増えていますが、廃水排熱の減少で環境負荷低減も図っています。

カーペット部門

自動車用フロア内装材は、タフテッドカーペットとニードルパンチカーペットに大別されます。現在、フロア材としては、ニードルパンチを主力とし、アジア、北中米の6ヵ国で生産、販売しています。ニードルパンチは「材料構成がシンプル」、「工数が少ない」、「比較的軽量」であり、環境負荷の低減に繋がる商品です。また、フロアカーペットにとどまらず、この技術を活用し「車室内外の騒音低減」を実現する繊維製品を開発、生産し、自動車を取り巻く環境の改善に寄与すべく努めています。

マット部門

2018年タイ国チェンマイにアジア圏で当社第3のマット生産拠点として「Suminoe Koide (Thailand) Co., Ltd.」を設立。アセアン地域で自動車生産台数1位であるタイにおいて、日本向けのみならず現地マーケットへの商圏拡大のなかでより競争力を高めることを目的として事業展開しています。



■■■

グローバル拠点で最も歴史ある拠点

1994年にタイ中部のアユタヤに合併会社として設立しました。T.C.H. Suminoe Co., Ltd.(TCHS)は、グローバル拠点のなかで最も歴史があり、ファブリックとカーペットを中心とした事業活動を行っています。生産を支えているのは約190名の従業員で、そのうち約36%が女性です。

お客様のニーズにお応えする品質を重視したモノづくりに徹するため、2002年にISO/TS 16949の認証を取得し、環境負荷の低減についても2006年にISO 14001の認証を取得しました。当社グループ拠点の先駆者として、地球の環境負荷低減について真摯に取り組んでいます。

■■■

働きやすい職場環境

タイは、国民の多くが仏教徒で、両親を大切にし、礼儀正しく温厚という国民性があります。また、近隣諸国と陸続きのため、古くから様々な国と交流があり、外国人にもとても住みやすい国です。LGBTを含め多様性を尊重する国なので、社内もダイバーシティが進んでおり、取り組むというより自然に身につくため、働きやすい環境です。

■■■

社会貢献と社内コミュニケーションの活性化

社会貢献活動も盛んで、大学への編機寄贈やカンチャナブリ県の学校・慈善団体の孤児への寄付などを行いました。近年では、チャリティマラソンに参加しています。タイではランニングが人気で、健康づくりへの関心が高まっています。また、社内コミュニケーションの活性化にも取り組んでいます。旧正月のソンクランはタイで一番暑い時期に行われる大規模な水掛け祭りです。水をかける行為自体「敬意を払う」という意味のため、上司や部下関係なく、大いに盛り上がる行事で、TCHSの社員全員が楽しみにしています。そのほかにも社員旅行やニューイヤーパーティなど様々なイベントがあり、社員同士コミュニケーションを深めています。

2011年には、大洪水により工場全体が浸水被害に遭うという苦境も経験しましたが、日本およびほかの海外グローバル拠点からのバックアップ生産供給体制により、最後まで支障をきたさずに供給対応し、お客様の強い信頼を得ることができました。

今年25周年を迎え、今後も、安定した事業運営と地域社会への貢献に注力していきます。



社会貢献活動 2018年6月 チャリティマラソン
(バンパイン工業団地企業の従業員と家族) 参加者17名



タイの伝統的な儀式「ソンクラン」(年少者が年長者に少量の水をかけ敬意を表す恒例の水掛け祭り) 2019年4月12日 工場の前庭



アユタヤ県にある世界遺産「ワットヤイチャイモンコン」の涅槃仏と乾期のすがすがしい空

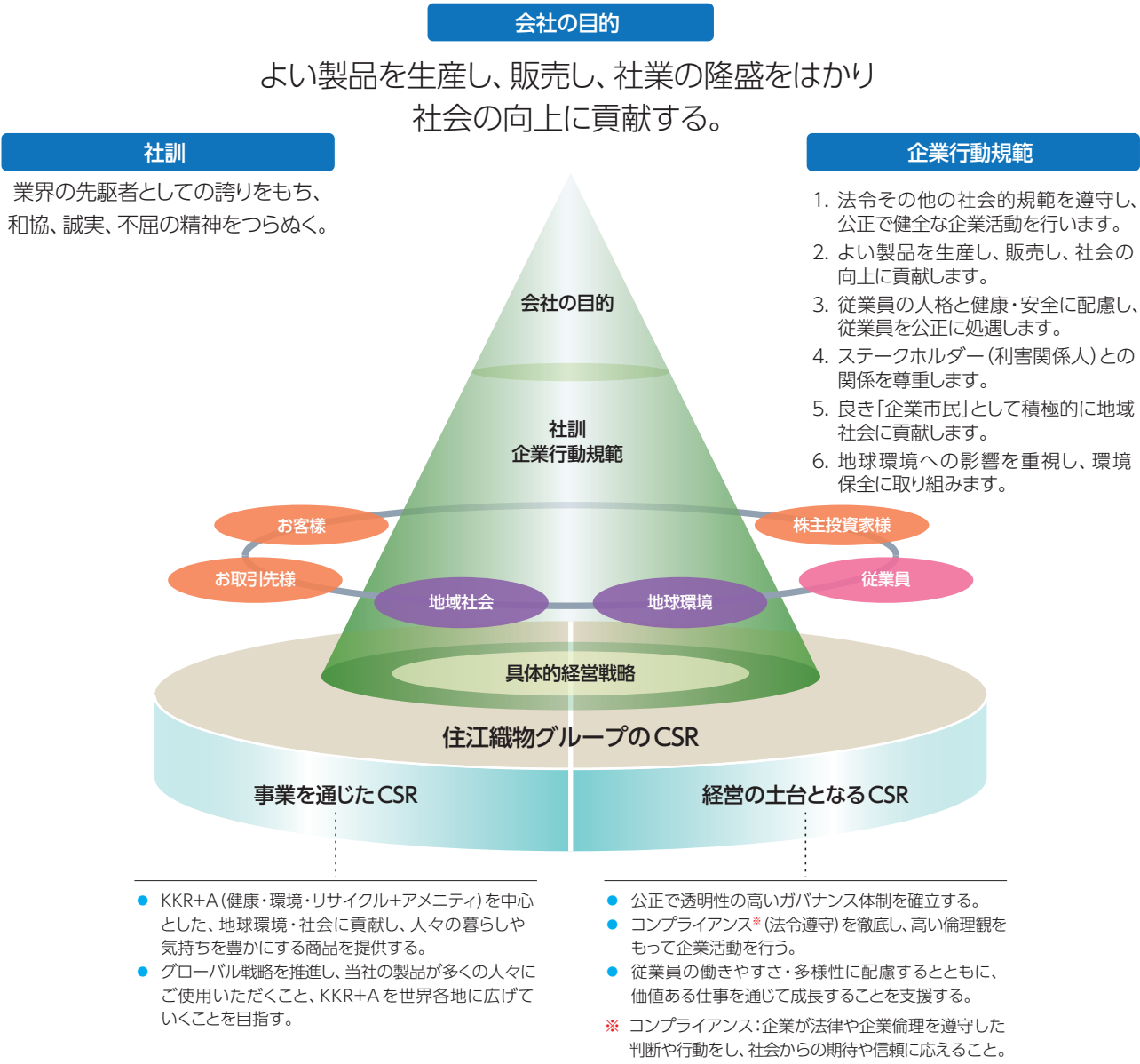
山本 幸広 1992年入社



2017年4月に着任しました。TCHSでは、タイ国内外の自動車メーカー向けのカーペット関連の開発業務を担当しています。開発における技術面では、近年開発車種のグローバル化により、日本と同等の性能が要求されており、コスト面でも現地資本のメーカーとの競争になり、会社として総合的な技術力が求められています。初めての海外赴任で、言葉の壁はもちろんのこと、考え方といったタイ文化の予想外の壁を目の当たりにしています。意思の疎通が上手いかず、少し感情的になってしまう時もありますが、翌日には「タイ語で笑顔で挨拶」を心がけ、職場の雰囲気づくりに努めています。海外赴任したことで、現地従業員のパフォーマンスをどのように向上させるかという見方をするようになり、仕事に対する視野が広がったと思います。自分自身、少しずつ成長を実感しています。

CSRへの取り組み

住江織物グループの経営理念とCSRの体系



ステークホルダーとのコミュニケーション

私たちはCSR活動方針に基づき、以下の通り価値を提供していくことで、ステークホルダー(利害関係人)の皆様との良好な関係を構築するとともに、地球環境に寄与し次世代への責任を果たしてまいります。

お客様	お取引先様	株主投資家様	地域社会	従業員	地球環境
お客様の声に真摯に向き合い誠実な対応を心掛けます。お客様とともに快適な空間を作り上げることが私たちの喜びとし、信頼を得ることを目指します。また、品質向上の取り組みを推進してまいります。	お取引先様との関係を大切に、共にお客様への対応力の向上を目指していきます。価格・品質・納期など合理的な基準によって選定を行い、公正で対等な取引に努めます。	適正な利益の確保により、株主・投資家の皆様へ還元することを目指してまいります。IR活動により、積極的な情報開示を進めてまいります。	各国、また地域社会との交流を深め、文化・歴史を理解するとともに、社会貢献活動を行ってまいります。	従業員一人ひとりの人格や個性を尊重し、働きやすい職場環境を整備してまいります。また、能力を最大限に発揮し、課題を解決していこうという従業員の想いに応えてまいります。	地球環境の維持と改善の一助となる魅力的な環境商品・技術を生み出すことに力を注ぎます。また、事業活動を通じ環境負荷低減活動(省エネルギー、省資源、廃棄物削減など)に努めてまいります。

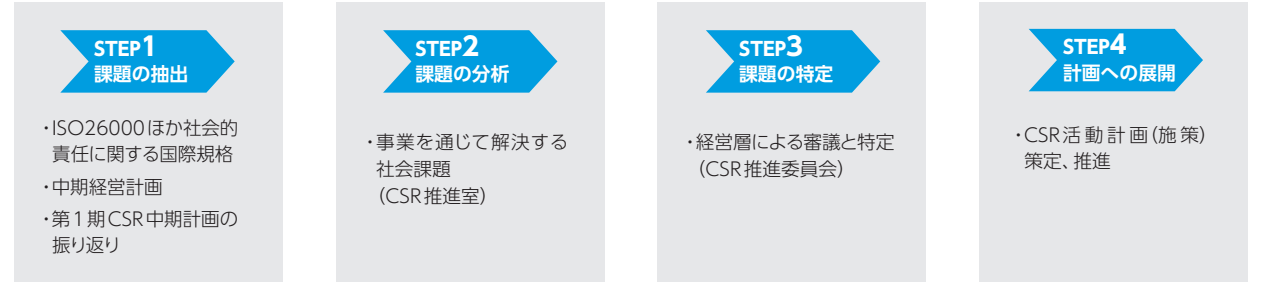
CSR活動方針

住江織物グループでは、「事業を通じたCSR」と「経営の土台となるCSR」を両輪としてさらなる企業価値の向上、広く社会からの信頼を得ることを目指します。

CSR中期計画

企業ガバナンスの再構築および事業の成長を基軸として策定した中期経営計画とともに2020年に向かって成長するため、第2期CSR中期計画を策定し、重点課題を特定し、取り組みを進めています。

■CSR重点課題の特定プロセス



第2期CSR中期計画・重点課題 (計画期間:2018年6月～2020年5月)

ESG項目	最重点課題	施策(取り組み)	関与するステークホルダー
G	1 コーポレートガバナンス	● 公正な企業活動の推進	すべて
G	2 コンプライアンス	● 役員および社員のコンプライアンス意識向上、研修の充実	すべて
G	3 公正な事業慣行	● 業務に関する法務教育と内部監査の充実 ● グリーン調達ガイドラインに基づく調達の推進	お取引先様
S	4 人材育成・活性化	● 研修の実施、グローバル人材育成 ● 多様性の尊重(女性活躍推進、障がい者雇用、再雇用、外国人雇用) ● 働き方改革(育児支援制度、介護支援制度、ワーク・ライフ・バランス推進)	従業員
S	5 安全衛生	● 労働災害の防止(安全教育、リスクアセスメントの実施) ● 働きやすい職場づくり(健康) ● 長時間労働の是正	従業員
ESG項目	重点課題	施策(取り組み)	関与するステークホルダー
S	6 品質向上	● 品質保証合同会議の定期開催	お客様
S	7 ステークホルダーコミュニケーション	● 積極的なIR活動 ● 企業イメージ向上	株主投資家様
S	8 お客様対応と社会への展開	● 日々の営業活動、お客様センターの対応	お客様
G	9 災害時の事業継続計画	● BCP行動計画の定期見直し	すべて
G	10 リスクマネジメント	● 海外子会社のリスク管理の認識	すべて
E	11 環境負荷低減	● エコチャレンジ2020、環境負荷低減製品開発	地域社会・地球環境
S	12 社会貢献活動	● 地域保全・活性化、環境保全、生物多様性保全	地域社会・地球環境

当社グループとして取り組むべき課題を特定した上で、「最重点課題」「重点課題」に分類し、施策(取り組み)を策定しています。また、ESG項目との関連性も整理しています。

※ ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字を取ったものです。持続可能な社会の実現に向けて企業が持つべき3つの要素とされています。

CSRへの取り組み

2018年度のCSR活動実績

ISO26000を参考ガイドラインとし、7つの取り組み分野に分け、中期的な取り組みを掲げています。

2018年度の実績は次のとおりです。

A:達成 B:ほぼ達成 C:未達成

取り組み分野	関連ページ	重点項目	主なテーマ	2018年度の取り組み目標	2018年度実績	自己評価
ガバナンス・コンプライアンス	P.19 ～20、 21 ～22	コーポレートガバナンス	公正な企業活動の推進のために、取締役会・監査役会および各種委員会での検討	・取締役会・監査役会の開催 ・CSR推進委員会での活動計画の審議	・取締役会を9回、監査役会を10回開催 ・CSR推進委員会を5回開催し、活動計画を審議	A
			評価範囲内対象会社について、財務報告に係る内部統制の有効性を評価	・内部統制有効性評価において、開示すべき重要な不備件数0件とする	・財務統制委員会を中心とした活動実施【実績：開示すべき重要な不備件数0件】	A
		コンプライアンス	住江織物グループ行動規範および行動基準の浸透	・各階層別研修でのコンプライアンス研修 ・新入社員へのコンプライアンスガイダンス配布および基礎知識講習 ・コンプライアンスワークショップの実施 ・コンプライアンス情報を適時イントラでのアップ【計画比実施率：100%】	・各階層別研修、新入社員研修でのコンプライアンス研修実施【計画比実施率：100%】 ・コンプライアンス研修実施（役員研修、コンプライアンスワークショップ） ・朝礼、週会時に企業行動規範を唱和	A
			コンプライアンスに関するモニタリングの継続実施	・ローテーションによるコンプライアンス監査の実施【計画比実施率：100%】	・ローテーションによるコンプライアンス監査の実施【計画比実施率：100%】 ・海外子会社への監査を重点的に実施	A
			ホットラインの周知	・新規入社者へのホットライン周知 ・階層別研修、ハラスメント防止研修、ワークショップの機会を捉え、ホットライン周知【目標：100%】	・新規入社者への周知の実施 ・階層別研修、ハラスメント防止研修、ワークショップの機会に周知【実績：100%】	A
事業執行	P.21	公正な取引	契約状況の見える化・取引に関する法務教育およびモニタリングを実施	・下請法や独禁法に関する研修実施 ・内部監査実施【計画比実施率：100%】	・下請法、民法改正対応などの勉強会、説明会および啓蒙活動の実施 ・内部監査実施【計画比実施率：100%】	A
	—	グリーン調達	グリーン調達ガイドラインの推進	・サプライヤーへのガイドラインの配布と帳票の回収【目標：年1回】	・サプライヤーへのガイドラインの配布と帳票の回収を実施【実績：年1回】	A
人権採用・人事処遇・育成	P.25 ～28	多様性の尊重	多様性を尊重し、働きやすい職場づくりを実施	・障がい者雇用率達成比率のアップ	・障がい者雇用率は未達	C
				・シニア社員による専門分野マニュアル作成	・シニア社員による専門分野マニュアル作成、勉強会は未実施	B
				・シニア社員による勉強会実施	・知識・技術の継承は継続的に実施 ・CSRレポートでの活躍PR	
		人材育成	自らの能力向上の支援としての集合教育の実施	・育児支援制度、介護支援制度の充実 ・ワーク・ライフ・バランス推進（ノー残業デー推進、有給休暇取得率のアップ）	・育児両立支援マニュアル修正、介護両立支援マニュアルの作成 ・ワーク・ライフ・バランス推進（ノー残業デー推進、有給休暇取得率のアップ）	B
				・階層別・テーマ別研修の実施と内容の充実 ・社員に合うテーマを厳選して実施（受講者アンケートを参考にする）	・階層別研修：内容の検討を例年通りに実施 ・テーマを選定し、テーマ別研修「コミュニケーション力向上」「段取り力向上」を実施	A
			グローバル人材の育成	・赴任前教育の実施 ・語学研修の継続実施 ・海外赴任経験者との交流会 ・若手社員の現地研修 ・危機管理セミナー実施	・新入社員のTOEIC受験 ・語学研修（通学式レッスン、通信教育、オンラインレッスン、赴任前語学レッスン）の実施	B
				・トップメッセージをノーツ・社内報に掲載 ・女性社員を積極的に採用 ・男性管理職と女性に意識改革研修を実施 ・ロールモデル（女性管理職）との座談会実施 ・再雇用制度（カムバック制度）	・女性活躍サポートフォーラムへの派遣 ・CSRレポート、各研修での活躍PR ・「キャリアデザイン研修」「女性部下育成研修」の実施 ・再雇用制度「ジョブリターン制度」の創設	A
			人材活性化	・「未来塾」の実施 ・「歩き回る経営」の実施 ・「次世代育成面談」の実施 ・「ランチミーティング」の実施	・第3期「未来塾」の実施 ・「歩き回る経営」経営会議の本社以外で年間5回の実施 ・「ランチミーティング」「コミュニケーションヒアリング」の実施	A
		P.26	労働安全衛生	・中央安全衛生部会による意見集約と情報の共有化 ・労働災害情報の共有化 ・休業件数での労災害度数率目標：1.0以下 ・安全教育の実施 ・リスクアセスメントの実施 ・相互パトロールの実施	・中央安全衛生部会による意見集約と情報の共有化 ・労働災害情報の共有化 ・休業件数での労災害度数率目標：1.33未達 ・安全教育は定期的に実施 ・リスクアセスメントの実施（奈良事業所に加え滋賀事業所で） ・中央安全衛生部会開催事業所で相互パトロール実施	B
				・防災訓練の実施【計画比実施率：100%】	・防災訓練の実施【計画比実施率：100%】	A
安全・防災・健康	P.36 ～41	事業活動における環境負荷の低減	地球温暖化防止	・温暖化防止のため、使用エネルギー削減、社有車の燃料使用量を1%削減 ・再生資源利用率を1%向上 ・産業廃棄物発生量の1%削減（削減の原単位は2017年度基準とする）	・温暖化防止のため、使用エネルギー削減、社有車の燃料使用量を1%削減 ・再生資源利用率を1%向上 ・再生資源利用率においても目標値達成 ・産業廃棄物発生量のみ目標値を未達成（削減の原単位は2017年度基準とする）	B

取り組み分野	関連ページ	重点項目	主なテーマ	2018年度の取り組み目標	2018年度実績	自己評価
安全・防災・健康	P.26	労働安全衛生	社員の健康を保持するためのケアを実施	・ハラスメント防止研修の継続実施 ・ハラスメント相談窓口の広報促進 ・ハラスメント相談員の増員（関連会社含む）	・ハラスメント防止研修の小規模事業所での実施 ・ハラスメント相談窓口の広報 ・ハラスメント相談員の増員については未実施	B
				・時間外労働時間の管理、把握 ・時間外労働の多い従業員との面談実施 ・業務改善の取り組み ・ノー残業デー巡回	・時間外労働時間の定期的なチェック、タイムレコーダーとの乖離の確認と指導 ・時間外労働の多い従業員との面談実施 ・残業時、早期退社を促す館内放送の実施	B
				・健康づくり啓発活動の検討	・啓発活動の検討については未実施	C
リスクマネジメント	P.23	BCP	災害時の事業継続計画推進	・他事業所での安否確認訓練実施 ・本社事業所におけるBCP訓練での得意先への情報発信訓練の実施 ・新たな安否確認情報方法の検討	・（株）スミノエ本社での安否確認訓練実施 ・本社におけるBCP訓練での得意先への情報発信訓練は未実施 ・新たな安否確認情報方法は検討中	B
		知的財産権	知的財産権への理解促進	・知的財産権に関する啓発活動の実施（社内イントラ・研修）【計画比実施率：100%】	・知的財産権に関する啓発活動の実施（社内イントラ・研修）【計画比実施率：100%】	A
	—	情報セキュリティ	情報セキュリティ教育の実施（情報端末セキュリティ、個人情報保護）	・各階層研修での情報セキュリティ教育の実施	・各階層研修でDVDでの情報セキュリティ教育を実施	A
			インサイダー取引防止啓発活動の実施	・インサイダーに関する啓発活動を実施	・インサイダー取引に関する啓蒙をイントラネットで実施	A
	P.30	品質向上	品質向上の取り組み推進	・品質保証合同会議の定期開催 ・品質向上（不良品低減、品質損失金額低減活動） ・化学物質規制に関する状況共有の取り組み継続実施	・品質保証合同会議を年4回開催 ・品質向上（不良品低減、品質損失金額低減活動）と化学物質規制に関する状況共有の取り組み実施	A
	—	顧客満足の向上	お客様対応と社内への展開	・お客様センターへの問い合わせ内容のCSR推進委員会への報告 ・クレーム内容と対処結果の分析 ・お客様の声を活かした商品開発	・お客様センターへの問い合わせ：2,158件 そのうち、商品・規格・価格・機能性に関する問い合わせ32%（691件）、ご指摘が3%（73件） ご指摘については、内容を分類した後、原因を分析し、次回の商品開発に活用	B
	—	情報開示	適正なIR情報の開示	・企業活動におけるIR情報の適時開示 ・決算短信4半期ごとに東証への適時開示および自社HPに掲載を遅滞なく実施	・企業活動におけるIR情報の適時開示を実施 ・決算短信4半期ごとに東証への適時開示および自社HPに掲載を遅滞なく実施	A
				・ステークホルダーとのコミュニケーション促進（当社の強みのPR）	・JAPANTECH2018、第85回東京インターナショナルギフトショーなど展示会へ出展 ・グループ各社企業ブランドイメージ向上を図り、ホームページを刷新 ・機関投資家との面談回数は前期に比べて増加、積極的にコミュニケーションを図り、当社の事業、業績への理解を促進	A
		P.35	社会貢献活動	・地域への貢献 環境関連の社会貢献活動実施	・地域への貢献、環境関連の活動は継続実施 ・社会と積極的に関わりを持ち、地域保全および活性化に参画	B
環境	P.36 ～41	事業活動における環境負荷の低減	地球温暖化防止	・温暖化防止のため、使用エネルギー削減、社有車の燃料使用量を1%削減 ・再生資源利用率を1%向上 ・産業廃棄物発生量の1%削減（削減の原単位は2017年度基準とする）	・使用エネルギー削減、社有車の燃料使用量は目標値達成 ・再生資源利用率においても目標値達成 ・産業廃棄物発生量のみ目標値を未達成（削減の原単位は2017年度基準とする）	B

ガバナンスの強化

信頼される企業基盤の構築～公正で健全な経営

コーポレートガバナンス※

ガバナンス体制

経営の健全性、効率性の確保のため、社外取締役の選任、監査役制度の機能強化を図るなか、経営の迅速かつ機動的な意思決定と業務執行の監督機能として取締役会と業務執行責任を負う執行役員制度を導入しており、ガバナンスの有効性を確保しています。

※ コーポレートガバナンス：一般的に「企業統治」と訳され、経営の透明性や企業価値の向上を目的に企業経営を管理・監督する仕組み。

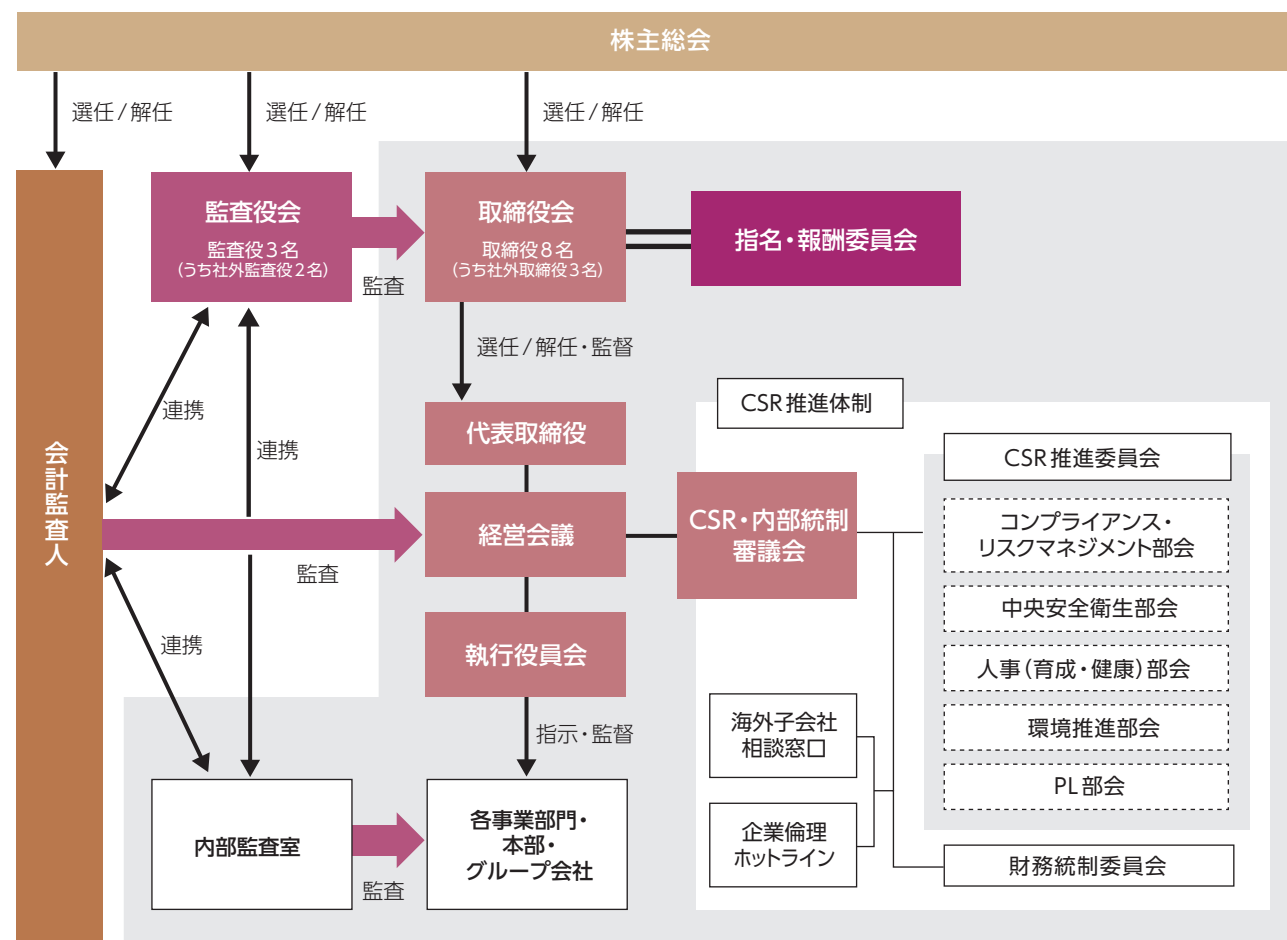
CSR推進体制

CSR推進委員会は、CSRに関する活動方針の決定や各部会の活動計画の審議、進捗確認など、中心的な役割を担う機関として住江織物(株)本社にて年に4回開催しています。

また、再発防止中長期プランの計画審議および進捗確認を行っており、ガバナンスおよびコンプライアンス強化を推進しています。

各部会においては、CSR課題の把握および具体的な施策の実施に向けて、活発な討議を重ねています。

■コーポレートガバナンスとCSR推進体制図



取締役会

8名の取締役(うち、社外取締役3名)で構成し、業務執行の監督および重要事項の決定を行っています。

監査役会

監査役3名(うち、社外監査役2名)で構成し、監査方針・計画の決定、監査報告についての協議を行っています。

指名・報酬委員会

取締役会の指名や報酬等に関する評価・決定プロセスを透明化・客観化することで監督機能の強化を図り、コーポレートガバナンス体制をより一層充実させるため、取締役会の諮問機関として設置しています。

委員会は、代表取締役、独立社外取締役および取締役会

の決議によって選任された取締役の委員5名で構成し、その過半数は独立社外取締役などの社外役員としています。

経営会議／CSR・内部統制審議会

経営会議は、原則毎週開催し、経営上重要事項の報告・審議を行い、特に重要事項については、取締役会に上申します。CSRに関する重要事項および財務報告に係る内部統制の評価については、CSR・内部統制審議会として審議します。常勤監査役1名がオブザーバーとして参加しています。

執行役員会

社長以下、執行役員で構成され、毎月1回開催されます。取締役会もしくは経営会議での決定事項の通達および各執行範囲における現状の報告が行われます。



後列左より 橋本 雅至 社外監査役／野村 公平 社外取締役／小瀧 邦彦 常勤監査役／沢井 克之 取締役／永田 鉄平 取締役／園田 篤弘 社外監査役
前列左より 横田 隆司 社外取締役／飯田 均 代表取締役専務／吉川 一三 代表取締役会長兼社長／谷原 義明 代表取締役専務／清水 春生 社外取締役

ガバナンスの強化

信頼される企業基盤の構築～公正で健全な経営

コンプライアンスの徹底

基本方針

法令・企業倫理を遵守した企業活動

当社グループは、コンプライアンス経営を実践するための基本方針として「住江織物グループ企業行動規範」・「住江織物グループ企業行動基準」を定めています。

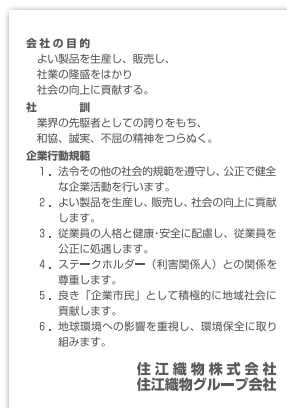
当社グループの役員および従業員は、基本方針をよく踏まえ、常に自らの考えや行動が、法令・企業倫理に沿ったものであるよう心がけています。

推進施策

日常的にコンプライアンスを意識する風土づくり

当社グループは、コンプライアンスを意識する手段として、様々なコンテンツにより情報の発信を行っています。2017年4月に発行した「コンプライアンスガイダンス」をツールとして、入社時と各階層別研修時にコンプライアンスについての講義を継続して行っています。

海外グループ会社の社員には、英語版・中国語版のガイダンスを配布しました。そのほかにも、コンプライアンス意識の醸成を目的として企業行動規範の唱和を行っています。



「企業行動規範」ポスター

コンプライアンスガイダンス
(日本語版・英語版・中国語版)

コンプライアンス教育

企業ガバナンスの強化・コンプライアンスの徹底に対する啓発活動を繰り返し実施

企業活動を行う基本としても、高い倫理観を持ってその場に適応した法令を遵守することが必要です。

当社グループでは、定期的なコンプライアンス教育を、繰り返し行っています。事業所に応じたコンプライアンス研修の計画のもと、本年度は、当社グループの製造部門を対象に、住江テクノ(株)滋賀工場でワークショップを実施し、48名が受講しました。製造部門におけるコンプライアンスという観点を踏まえ、業務に潜むリスクや、不正リスクの内容について、意識の共有を図りました。



公正な取引（下請法遵守）

定期的な「下請法研修」の実施

当社グループでは、「よい製品を生産し、販売し、社業の隆盛をはかり社会の向上に貢献する」ことを会社の目的としています。この目的を達成するために、「お取引先様との信頼関係の深化」を非常に重要なものとして位置づけています。特に、下請法を厳守し、下請取引の適正かつ円滑な運営を図るための諸施策に、継続して取り組んでいます。

教育・啓発施策として、下請法違反行為の未然防止や従業員の下請法に関する意識向上を図るために、CSR推進室法務グループによる「下請法研修」を実施しています。本年度は、住江織物(株)、(株)スミノエ、スミノエ テイジンテクノ(株)、尾張整染(株)にて123名に対し実施しました。よくある質問や実際の取引書類を説明資料に盛り込み、研修終了後の質問や個別相談にも対応しました。

内部通報制度

窓口の周知および利用の促進

当社グループにおける従業員が、社内で法令や企業倫理に反する行為などを発見したときの通報受付窓口として「企業倫理ホットライン」を設置しています。社内窓口には企業倫理ホットライン運営室、社外には弁護士窓口、ハラスメント専門窓口、健康相談窓口を設けています。気軽に安心して相談してもらえるように、各社内研修やコンプライアンスワークショップなどの機会に窓口の周知および利用を促しています。

■各種相談窓口の相談状況(件数)

相談内容／年度	2017	2018
企業倫理ホットライン	3	2
社外弁護士	0	0
健康相談窓口(ハラスメント相談)	6	0
ハラスメント相談窓口	1	8

歩き回る経営

従業員と経営幹部の双方向コミュニケーションによる各現場での問題点を討議

当社グループは、経営幹部と従業員が情報共有し、双方向コミュニケーションを図るために、「歩き回る経営」を実践しています。役員(取締役・執行役員)が、当社グループの事業所やグループ会社、工場を訪問し、各現場の従業員と意見交換を行っています。

2019年3月25日に尾張整染(株)石川工場を訪問しました。工場見学の後、スミノエ テイジン テクノ(株)北陸事務所を訪問し、尾張整染(株)幹部とのミーティングの後、現地従業員も含め懇親会を開催しました。



働きやすさアンケート(社内意識調査)2019

働きやすい環境の実現とCSR活動の進捗の確認

CSR活動の進捗状況を測り、今後の取り組みに活かすために年1回「働きやすさアンケート」を国内・海外グループ会社、全従業員を対象として実施しています。

今回のアンケートでは、「わたしは今の会社で長く働きたい気持ち強い」に対する回答は昨年と比較して0.05ポイント上がる結果となりました。この結果を受け、従業員の満足度をより向上させるため、人材活性化を中心とした取り組みを実施してきました。今後も継続的に実施していきます。

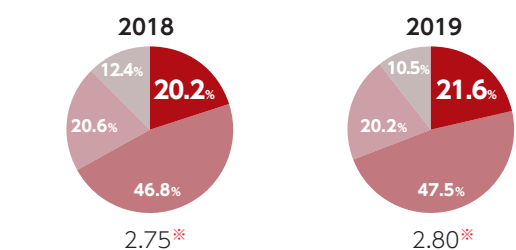
アンケートの結果については、経営会議・執行役員会議、各部門責任者へ報告し、社内イントラネットでも閲覧できるようにしています。

アンケート調査の主な回答集計(一般・契約社員の結果)

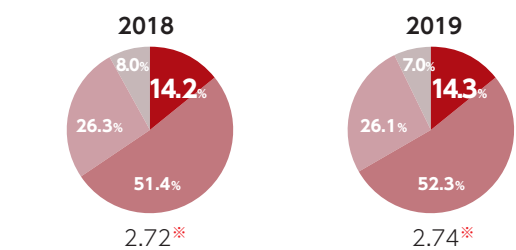
国内・海外のグループ社員全員を対象に実施。「業務」「職場」「会社風土」など8つの分野の設問があり、各設問に対して4段階で回答する選択形式と自由記述の2種類があります。但し、以下のアンケート結果には海外の社員からの回答は含まれていません。

■ そう思う 4点 ■ どちらかといえばそう思う 3点
■ どちらかといえばそう思わない 2点 ■ そう思わない 1点

わたしは、今の会社で長く働きたい気持ち強い



わたしは、今の仕事にやりがいを感じている



※ 4点を満点とした指数

ガバナンスの強化

信頼される企業基盤の構築～公正で健全な経営

リスクマネジメント

リスクマネジメント

国内事業所のリスク管理

国内事業所のリスクマネジメントについては住江織物(株)およびグループ会社より提出されたリスクに基づき財務諸表の重要な虚偽表示のリスクを中心として把握を進め、そのリスク評価を財務統制委員会にて検討し、経営会議でも認識しています。国内事業所においては内部統制の運用において、一定レベルまでリスク軽減はできていますが今後はIT化を推進し、各リスクをより軽減する体制を確立させていきます。

海外子会社のリスク管理

中国 住江互太(広州)汽車纖維製品有限公司(SPM)

リスクマネジメント活動を開始し6年目となる今年度は、「原価低減」をテーマとし取り組み、改善を進めています。テーマ選定の背景として、自動車購入減税のかけ込み需要の反動による販売台数減少や米中貿易摩擦による消費者マインド低下などがあります。これらの影響は軟調に推移することが予測されるものの収益確保に向けた活動の必要性はより一層高まっています。着実に成果をあげるため各部署で検討した改善項目をリスクマネジメント委員会でも目標を設定し、月次の実績を精査し不足の場合は追加項目の検討を行い、より確実に成果をあげ目標達成に向け取り組んでいます。

インドネシア PT. Suminoe Surya Techno(SST)

昨年、棚卸差異対応として、バーコード&ハンディターミナルを使用した棚卸システムを導入し成果をあげました。今年度はさらなるリスク低減を図るため、現場作業や管理業務の効率化を目指し、海外生産工場のモデルケースとして生産管理システムの導入に着手しました。早期の本稼働および成果をあげ、まずは同生産形態をとるタイSuminoe Koide(Thailand) Co., Ltd.(SKT)、中国 蘇州住江小出汽車用品有限公司(SSK)へ横展開し、全社プロジェクトである「基幹システムの再構築」に寄与します。

海外子会社の高リスクの領域を対象とした効果的・効率的なリスク管理を今後も継続します。

知的財産の取り組み

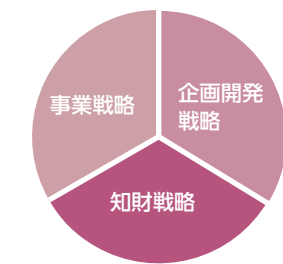
三位一体戦略の実現に向け推進

知的財産権のなかには特許権、実用新案権、意匠権、商標権などがあり、自社商品を守るために社内の知的財産権に対する意識の向上および理解促進を図る活動に取り組んでいます。

具体的には、社内イントラネット上に「知的財産NEWS」を発行し、PCT国際出願(特許協力条約に基づく)について、日本の特許庁に特許を出願する費用、三位一体戦略、企業の事業活動における知的財産などの知的財産教育を行っています。また奈良と大阪で定期開催している技術会議で、関連の特許情報や知的財産権に関するトピックスを紹介しています。

市場の奪い合いが激しい事業分野では、事業戦略・企画開発戦略・知財戦略が密接に連携することが益々重要となっており、三位一体の戦略を実現すべく推進していきます。

三位一体の戦略



事業継続計画(BCP※)の進捗

安否確認訓練の実施

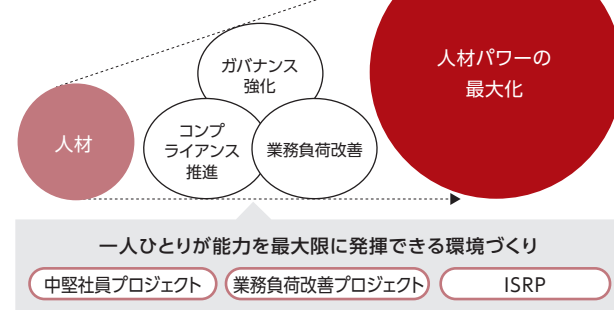
当社グループでは以前より、災害発生時に企業としての信頼の継続のためには、お客様への迅速で正確な情報発信がキーだと考え、安否・被災状況などの情報収集を重視したBCP行動計画の策定に取り組んできました。住江織物(株)本社ビルでは、緊急事態発生時の動作の確認を特に重視し、社内緊急連絡ルールに従って社員の安否を確認する「BCP安否確認訓練」を継続して実施しています。

2019年9月5日、大阪880万人訓練に合わせて、安否確認訓練を実施し、対策本部にて社員全員の安否を速やかに確認することができました。(株)スミノエ本社でも今回初めて安否確認訓練を実施しました。

※ BCP: Business Continuity Planningの略称で、災害や事故などの緊急事態が発生した際に事業の継続や復旧が速やかに行えるよう策定される計画。

3つのプロジェクト

■人材パワーの最大化



1. 中堅社員プロジェクト

部門を超えた人材交流の活性化と課題解決力の向上
2018年度活動内容

中長期プランとして、次代を担う人材の育成および企業風土の改革を図るため発足し3年目となりました。

今年度は昨今「働き方改革」への取り組みが注目されるなかで、当社グループとして省力・省人化、時短、業務高度化などに取り組むため、昨年度の「業務の棚卸」と「業務負荷改善」の活動を踏まえ、具体的な解決案を検討、策定し、可能なものについては実施しました。

活動での気づき

過去からの業務踏襲やシステム未整備などから、業務負荷が増大し、結果的に業務改善への時間が取れない状況が見受けられ、また、システムの便利な機能があるにもかかわらず、周知されていないために余分な時間がかかっている業務も存在していました。今年度の取り組みでは、これらの問題点を洗い出し、改善に努めた結果、一定の効果を得られました。

今後の予定

中堅社員チームとしては、小さな改善の積み重ねも必要であると考え、自部門以外の業務の改善にも携わり問題を解決し、人材交流を深める活動を行います。また「業務負荷改善プロジェクト」とも連携し、新たに発足したISRP(情報システムリエンジニアリングプロジェクト)への提案・提言に重点を置き、活動していきます。

2. 業務負荷改善プロジェクト

コンプライアンス意識向上には業務負荷改善が必須

当プロジェクトでは昨年度実施した「業務負荷の改善に向けての実態調査」の結果より、各セクションでの「IT対応以外の業務負荷改善策」についての検討を行い、そのなかでグループの全部署共通で取り組んでいける改善策について検討しました。

- ① Excelのスキルアップ講座。(業務の効率化のためのパソコンスキルのレベルアップ)
- ② TV会議の活用(TV会議可能な拠点で導入検討)。
- ③ 今後の課題(共有ファイルの活用・社内イントラネットの有効活用・パソコンロックなどの残業対策・ペーパーレス化など)。

3. ISRP(情報システムリエンジニアリングプロジェクト)

全社協力体制で基幹システムの再構築を
スピードアップ

基幹システムの再構築をグループ全体で進めています。これまでボトムアップ型のプロジェクト体制で進めてきましたが、2018年11月よりグループ全社プロジェクトとしてトップダウンによる推進体制に変更しました。全グループで取り組み成功させなければならないミッションであるという意識を高め、より緊密に全社協力体制のもと、プロジェクトのスピードアップを図ることを目的としています。

ISRP基本方針

- ① 経営に必要な情報をスピーディーに集約させる。意思決定の迅速化。
- ② 月次連結業務を早期に提出する。
- ③ グローバル情報管理体制の確立。
- ④ 原価の比較(最適適地生産と調達)、“勝てる原価の作りこみ(ベンチマークの強化)”。
- ⑤ 最高品質の実現(トレーサビリティ BCPの強化)。
- ⑥ 紙ベースから自動入力へ(ペーパーレス化)。
- ⑦ 原価の見える化(全社的な原価データ共有)。
- ⑧ 全拠点共通の業務モデルを検討、グローバル標準モデルを構築する。
- ⑨ 各拠点でカスタマイズは原則行わない。業務を標準モデルに合わせる。
- ⑩ 受発注システムの自動化。

社会への取り組み

従業員の成長と活躍～一人ひとりが能力を最大限に発揮できる職場づくり

人権の尊重

当社グループは、人種、信条、宗教、国籍、身体的特徴などの理由で嫌がらせや差別を受けない健全な職場環境を確保します。

多様性の尊重

当社グループは、企業の持続的成長の源泉は人材であり、一人ひとりが能力を最大限発揮し成長することが重要と考えています。性別・年齢・国籍を超えて多様な人材がいきいきと活躍できる環境をつくっていくことを大切に取り組んでいます。

■ 人事データ (国内グループ)		各年度5月末時点	
項目／性別／年度		2018	2019
従業員数(名)	男性	1,063	1,070
	女性	463	483
平均年齢(歳)	男性	45.9	45.9
	女性	41.2	41.4
平均勤続年数(年)	男性	15.4	15.5
	女性	12.2	12.2
新卒採用者数(名)	男性	21	21
	女性	20	10

両立支援

住江織物(株)では、育児休業のうち3日間を有給化し、男性も育児休業を取得しやすいよう、規程改定を行いました。また、育児・介護などを理由に退職した社員を再雇用するジョブリターン制度の制定、看護・介護休暇の時間単位取得など、両立支援に取り組んでいます。

■ 育児・介護を支援する制度の取得者 (国内グループ)		項目／性別／年度		2017	2018
育児休業関係	休業取得者数(名)	男性	0	0	0
		女性	9	8	8
	休業復帰者数(名)	男性	0	0	0
		女性	8	9	9
	短時間勤務取得者数(名)	男性	0	0	0
		女性	10	13	13
介護休業関係	始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ取得者数(名)	男性	0	0	0
		女性	1	4	4
	休業取得者数(名)	男性	0	0	0
		女性	0	1	1
	休業復帰者数(名)	男性	0	0	0
		女性	0	0	0
	始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ取得者数(名)	男性	0	0	0
		女性	0	0	0

人材育成

研修体系は、階層別、役割別、選択型などに分け、グループ全体を対象に様々なカリキュラムを用意しています。2018年度より語学研修として新たにオンライン英会話を追加しました。

住江織物(株)では、入社3年目までを若手と位置づけ、入社後1ヵ月間を集合研修、5～9月までをOJT研修期間として研修を実施しています。受入部署で新人の3年間の育成計画を所属長・OJT担当者が作成し、それに基づき指導を行います。国内グループ会社を対象に、入社から3年間は各年次で研修を開催しており、新入社員研修後は2年目・3年目に集合研修を行います。合同で研修を実施することによって、グループ社員同士の交流の場ともなっています。

■ 研修受講者数		(2018年度)		
研修体系／受講者数(名)		計	男性	女性
階層別、役割別 選択型(スキルアップ)	集合研修	186	139	47
	通信教育	99	51	48
選択型(自己啓発)	語学学習	18	13	5

研修体系／受講者数(名)		計	男性	女性
指名・ 選択型	女性キャリアデザイン	14	0	14
	女性部下育成	18	16	2
	ハラスメント防止	31	13	18
	下請法研修会	123	76	47
	ミドルマネジメント研修※	13	13	0
	Web マネジメント講座※	22	19	3

※ 2019年7月から開講

Topics

ミドルマネジメント研修

次代を担う経営人材の育成

当社の次代を担う30～40代の社員のなかから数名がビジネススクールに通い、その成果として、合宿研修において今後の事業戦略などを経営陣に対し発表しました。また、そのほか希望者全員にWeb マネジメント 講座を受講してもらうなど、経営人材の育成に積極的に取り組んでいます。



Voice

スミノエ テイジン テクノ(株)
デザイン部 グローバルデザインG
神谷 彩香

2年次研修に参加して

研修では同期とグループになって、日々の仕事についてディスカッションをしたり、実戦形式で仕事の仕方を学びました。それらを通し、ゴール(目的)を持って仕事をする大切さを改めて学びました。優先順位や力の入れ具合を振り分けることで効率化し、成果へと繋げる仕事の仕方は大変勉強になりました。

労働安全衛生

安全活動

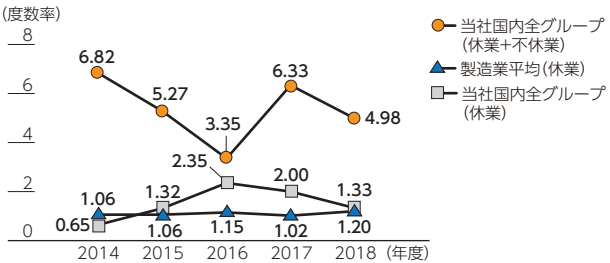
労働災害の未然防止活動の推進

当社グループでは、各事業所において安全衛生委員会(小規模事業所では安全衛生推進者)が主体となって労働災害の撲滅に取り組んでいます。

中央安全衛生部会では、各事業所で実施している「安全衛生に関する提案事例」「現場での注意喚起事例」などの情報の集約および共有を行い、労働災害の未然防止活動を推進しました。その結果、労働災害件数・休業災害件数ともに減少し、労働災害度数は改善しました。しかし、今期目標「休業件数度数率1.0以下」はクリアできませんでした。

今後はリスクアセスメントを行い、労働災害低減措置を各事業所と協議し、リスクの低減および事故再発防止を徹底します。

■ 国内グループ 労働災害度数率※推移



出典:厚生労働省「平成30年労働災害動向調査」

※ 労働災害度数率:100万労働時間あたりの労働災害による死傷者数

労働時間管理

長時間労働是正の推進

CSR推進委員会のもと設置している人事第1部会では、労働時間の現状把握を定期的を実施しており、その結果を踏まえ長時間労働改善取り組みの検討を行っています。在社時間が長時間である社員と上司へのその理由と改善施策のヒアリングや、朝礼時にノー残業推進デーの呼びかけを繰り返すことにより、効果が現れてきました。また、「働きやすさアンケート」のうち、労働時間に関する回答においても以前より改善されてきたとの結果が出ています。

有給休暇取得については、取得率をUPする取り組みを検討し実施していきます。

■ 有給休暇取得実績 (国内グループ)

項目／年度	2017	2018
年次有給休暇取得率(%)	42.1	42.7

ハラスメント防止

ハラスメントのない風通しのよい職場環境の構築

働きやすい職場環境づくりの一つとして、ハラスメント防止研修を実施しています。昨年に引き続き、2018年度も3年間で実施できなかった少人数の拠点を中心に実施しました。

住江物流(株)関西センター・滝野センター、(株)ソーイング兵庫では職場で起こりやすいハラスメント事例やSNSによるハラスメントなどについて勉強しました。丹後テクスタイル(株)では、コミュニケーション向上やパワハラにならない指導方法などについて研修しました。参加者からは、「今後のコミュニケーションについて考え直した」「他人に対して、不快を与える言動・行動をしないように心がける」などの意見がありました。

今後も継続して実施していきます。



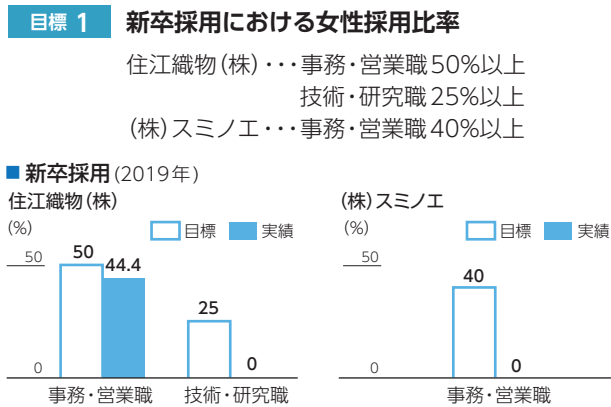
社会への取り組み

従業員の成長と活躍～一人ひとりが能力を最大限に発揮できる職場づくり

女性活躍推進

女性活躍推進に関する行動計画の進捗を報告します。

1. 計画期間: 2018年6月1日～2020年5月31日
2. 目標と進捗状況



女性活躍インタビュー

Voice

スミノエ テイジン テクノ(株)
デザイン部 グローバルデザインG

三村 友香

小さい頃からの夢、モノづくりの世界へ

小さい頃から絵を描いたり物を作ることが好きで、大学では「染め」や「織り」を学びました。仕事でも携わりたいと思い、住江織物に入社しました。現在は自動車シート表皮材のデザインを担当しています。入社当時は、インテリアやファッションの華やかさに比べると、自動車の一部品としてのシート表皮に魅力を見いだせないこともありましたが、糸の質感や織物の組織の美しさ、新しい加工法などを知るうちに、気づいたら夢中になっていました。

後悔しないよう全力で挑む

モノづくりは毎回新しいことへの挑戦で、営業・技術・デザインがチームとなってアイデアを出し合い、試行錯誤を繰り返しながら形にしていくので、大変ですがとてもやりがいがあります。まず私たちデザイナーがお客様の要望や想いを聞き、それを技術者へ伝え、その想いは加工場などの現場へと繋がっていきます。ただデザイン画を描いたり色を決めるだけではなく、一貫してコンペ開発に関わり、開発の方向性を示す役割なので責任重大です。コンペ開発に挑む際は、「後悔することのないよう全力でやりきる」を心がけています。開発に携わった多くの人たちの集大成となる

目標 2 ライフイベントを経ても継続就業出来るような両立支援制度の充実

両立支援の取り組みを進めています。
レポート P.25 「両立支援」をご参照ください。

目標 3 社員意識調査(「働きやすさアンケート」)女性活躍に関する設問ポイント 0.1UP

設問ポイントアップを目標に掲げており、一般社員は4つの設問に対して平均で0.02ポイントアップしました。今後も女性だけではなく、社員一人ひとりが活躍できる取り組みを進めていきます。

Topics

外部からの評価を獲得

大阪市女性活躍リーディングカンパニー
の二つ星認証をいただきました。



商品を、その苦労や頑張りを見事に仕上げるように、思いを込めてプレゼンテーションの場で伝えるようにしています。後で、あの時こうしていればとよくよくすることが嫌なので、その時その時を全力投球で取り組んでいます。

商品が完成した時はもちろんですが、受注が取れた時は一番嬉しく楽しい瞬間ですね。開発メンバー全員が、大きなプレッシャーのなかで一つの目標に向かってともに苦勞し、作り上げたという一体感を感じるからかも知れません。商品が完成するまでは苦勞も多く、「もうこんな大変な思いはしたくない」とまで思うのですが、開発が終わるとこの苦勞が一番楽しい思い出になっています。

自分が得たものを後輩たちへ

商品化されるまでの長い期間、人と付き合うので、その人たちの魅力や人間力から学ぶことも大きいです。一緒に喜び、時には厳しいことも意見し合うメンバーのおかげで、困難なことも乗り越えられましたし、上司や先輩からのサポートにもずいぶん助けられ成長できたと感謝しています。

入社2年目にはアメリカ赴任という貴重な経験もできました。苦勞も多かったですが、そこで自立できたことが多く、現地での人間関係は今も財産になっています。

私の仕事は、男女の区別なく活躍できますし、頑張ったことを認めてもらえる職場環境なのでとても働きやすいです。今後も、私が経験したモノづくりの楽しさやチーム力の大切さをできる限り後輩たちへ伝えながら、一緒に成長していきたいと思っています。

シニア社員の活躍

Voice

尾張整染(株)
新事業課 新商品担当

水上 光博

日々心がけていること

新事業課で新商品を担当しています。マイクロファイバーを使用した掃除用品や、クロスキャビンなどの製造をしています。新商品では、受注から品質まで管理が多岐にわたり、それらを少人数でこなす必要があるため、個々が多能工であることが求められます。そのため、マンネリにならない、変化を怖がらない、変化できる自分でありたいと思っています。「日々に新たなリ」という言葉が好きで、昨日よりも今日、今日よりも明日と自分から変わろうと意識しています。昔から心がけていることですが、シニアになってよりその意識が強くなりました。

やりがいを感じていることやよかったことは?

商材はどんどん広げないと定番商品だけでは生き残っていけません。少しでも目先の違うものを作ったり、新たな切り口で提案するなど自由な発想で取り組めることにやりがいを感じています。また、協力工場の方々も、一つの家族のような存在だと思い、日頃からコミュニケーションを大切にしています。皆が満足するように、司令塔である自分がしっかり導いていくことも大きなやりがいですね。異動が多く苦勞もありましたが、色々なことに携わったおかげで、たくさんの人と出会い付き合えたことがよかったと

海外事業の現地社員の紹介

Voice

Suminoe Textile of America Corporation (STA)
Fabric/Mat Manager

Christopher Glawson 入社日 2015年5月18日

仕事内容でやりがいを感じているところ

どうやって従業員と上手くやっていくか、会社としてどうやって成果を出すか考えること。

日本人スタッフと上手くコミュニケーションを取る秘訣は

日本人とともに部の目標に対して同じ理解を持ち、強い繋がり築くこと。信頼すること。

と思っています。自分にとって本当にプラスになりました。

嬉しかった出来事は

10年前は売上が本当に少ない部門でしたが、従来品以外の仕事も取り込めるようになってきて少しずつ売上も安定してきたことです。自分の代で終わらせられなかったことで利益を上げることができて嬉しく思っています。

シニアとして働く人へのメッセージ

変化を恐れなくて積極的に進んで欲しいと思っています。年齢を重ねると挑戦への気持ちが消極的になりがちです。守りの考えを打破し、日々新たな気持ちで仕事に取り組むように心がけることが大切だと思っています。

Voice

尾張整染(株)
新事業課 新商品担当

本江 裕見子

同僚から水上さんへのメッセージ

業務的なことから開発、品質、営業までオールマイティーに仕事をこなされて尊敬する部分が多いです。わからないところはきちんと教えてくれ、フォローもして下さいます。性格は少し堅く真面目過ぎる部分もありますが、ムードメーカーでとても優しい方です。今後も色々なことを教わりたいと思っています。

仕事をする上で大切にしていること

自分自身、SUMINOEにとって大切だと感じる事がたくさんあります。

- 1 職場を清潔で整理整頓された状態に保つことで、従業員の安全を守ること(6S:整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法)。
- 2 自信を持った質のよい製品を納期通りにお客様へ納品すること。
- 3 部を超えてオープンにコミュニケーションを取る環境を保つこと。
- 4 従業員とオープンにコミュニケーションを取る環境を保ち、SUMINOEとお客様にとって何が大切かを気づかせること。

STAの強みは

市場の多様性に対応していく柔軟な発想。

社会への取り組み

お客様への価値創造～「モノづくり」を通じた環境、社会への貢献

モノづくりに対する考え方

高機能商品創出による社会への貢献

当社グループの会社の目的は「よい製品を生産し、販売し、社業の隆盛をはかり社会の向上に貢献する。」であり、モノづくりを通じて、革新技术や高機能商品の創出をすることで、社会に対し貢献することが企業の責任であると考えています。開発・製造・営業部門の三位一体の総合力で、国内外の顧客ニーズに応じていきます。そのためには、施策と独自性の両立が必要と考えます。未来を見据えて、人材育成を行い、環境性能が高く、さらに健康に配慮した商品の開発、提案を推し進めます。

住江織物グループのモノづくりのバリューチェーン



技術開発

革新的な技術開発による事業成長

研究部門は、常に探求心を持ち、新しい分野で挑戦することが求められています。自社のシーズと顧客ニーズの両方が合致し、革新的な製品を生み出すことは容易ではありません。当社グループの伝統の技術・生産にとどまらず、時代の変化に対応した技術開発により、企業の成長を支えています。社外の人やモノに興味を持って接し、知識を増やし、時代の変化に対応した技術開発のできる人材育成に取り組んでいます。また、異業種企業、大学や研究機関との連携を図り、新しい分野の開発にも力を入れています。

技術情報の共有

有用な技術情報を各部門で共有

当社グループでは、生産技術、研究開発状況や知財情報などの技術情報を共有するため、経営層が参加する部門会議を開催しています。また、各事業所で生まれた新しい技術や取り組みを共有できるように、奈良技術会議、大阪技術会議を定期的に開催しています。



デザイン・意匠

グループ全体で定期的な情報交流会を実施

デザイン部は、1929年に図案部として発足し約90年の歴史があります。時代の変化に合わせ変化してきたデザイン部門は、市場動向、トレンドを敏感に捉える能力と、新しい技術と新素材を研究して取り入れていく姿勢が必要と考え、技術部門とも連携し、サステナブルな商品開発や、環境に配慮した長く使っていただけるデザインを心がけています。また、各事業部門のデザイナーが、定期的に情報交流会を実施し、グループ全体で環境に配慮したデザイン発想、モノづくりに活かしています。



品質保証・製品安全

基本方針

品質マネジメント

当社グループは、お客様に安全・安心で、満足いただける品質の製品をお届けできるように、創業以来培ってきた伝統と技術により、製品の安全確保や品質向上に取り組んでいます。継続的な品質維持・向上のために、品質マネジメントシステムを全社的に運用し、CS(お客様満足)に対する責任を第一とし、Better Products(よりよい製品)、Better Sales Service(よりよい営業サービス)を心がけています。

外部認証品質マネジメントシステム

航空・宇宙・防衛分野の品質マネジメントシステム「JIS Q 9100」の取得

当社グループは品質マネジメントの国際規格である「ISO9001」を国内外の7事業所で認証取得し、海外では「IATF16949」を5事業所で認証取得し、1事業所で取得に向けて取り組んでいます。

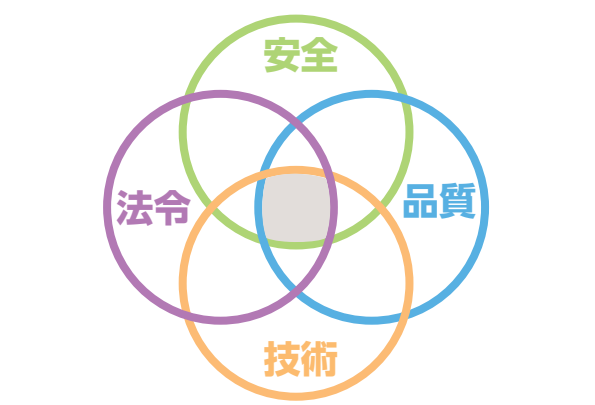
昨年度、航空・宇宙・防衛分野の品質マネジメントシステムである「JIS Q 9100」を取得しました。

より一層の品質向上に努め、より安心・安全で信頼できる製品を提供することで、国内外のお客様の要望に応えます。

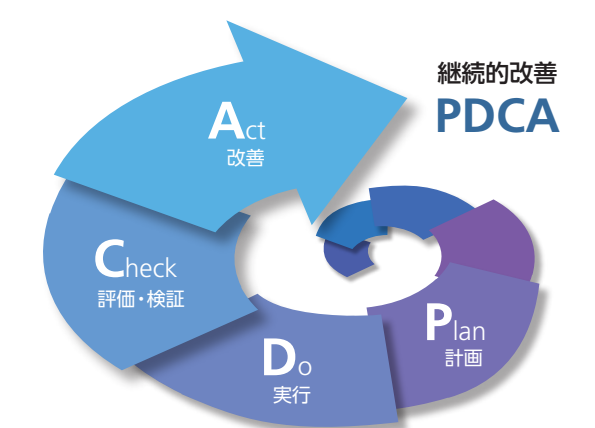
品質マネジメントシステム各外部認証取得状況

取得事業所		認証機関	登録番号	登録	有効期限
ISO9001:2015	住江テクノ(株) 奈良工場 住江テクノ(株) 滋賀工場、住江物流(株) 奈良センターを含む	日本規格協会	JSAQ 283	1998年 5月	2022年 5月
	スミノエ テイジン テクノ(株)	日本規格協会	JSAQ 422	1999年 1月	2020年 1月
	帝人テクロス(株)	日本品質保証機構	JQA-QMA12298	2005年 7月	2020年 7月
	尾張整染(株)	日本品質保証機構	JQA-QMA12266	2005年 7月	2020年 7月
	蘇州住江織物有限公司	中国質量認証中心	00117Q25120R0W/3200	2010年12月	2020年 6月
	Suminoe Textile of America Corporation(STA)	NSF ISR	C0315276-153	2017年 2月	2020年 1月
JIS Q 9100:2016	Suminoe Textile de Mexico, S.A. de C.V.(STM)	DQS Holding GmbH	10015814QM15	2019年 7月	2022年 7月
	住江織物(株) 機能資材事業部 大阪第1営業部および品質保証部	日本検査キューエイ	A5048	2018年 4月	2021年 4月
IATF16949:2016	蘇州住江小出汽車用品有限公司(SSK)	NSF ISR	CNTS024857	2005年 7月	2021年 3月
	T.C.H. Suminoe Co., Ltd.(TCHS)	TÜV Rheinland	01 111 064933	2002年 8月	2021年 2月
	住江互太(広州)汽車纖維製品有限公司(SPM)	Intertek	0223927	2009年12月	2021年 1月
	Bondtex, Inc.	NSF ISR	83141-TS9	2018年 9月	2021年 9月
	Suminoe Textile de Mexico, S.A. de C.V.(STM)	DQS Holding GmbH	10015814IATF16	2019年 7月	2022年 7月
JIS Q 17025	関西ラボラトリー(株)(大阪ラボ)	製品評価技術基盤機構	090277JP	2009年 4月	2021年 4月
	関西ラボラトリー(株)(奈良ラボ)	製品評価技術基盤機構	000137JP	2006年 9月	2022年 9月

住江織物グループの品質マネジメント



住江織物グループの品質サイクル



社会への取り組み

お客様への価値創造～顧客満足の上なる向上

車両関連納入実績



西武鉄道(株) 新型特急車両「Laview(ラビュー)」に内装材が採用

西武鉄道(株) 25年ぶりの新型特急車両「Laview」が2019年3月16日より営業運行しています。建築家の妹島和世氏がデザイン監修を務めており、三次元の曲面ガラスを使用した特徴的な先頭形状と、大型窓ガラスから覗く室内の柔らかく明るい色味が目を引く、これまでにない特急車両となっています。配色や腰掛の形状・質感にまでこだわった車両も、リビングのような柔らかい空間となっており、大変魅力的です。

すべての内装ファブリックが新規デザインとなり、座席の表皮材として採用されたモケットは、特殊な加工を施したパイル糸を全面に使用することにより、これまでにないソフトな風合いを実現しました。当社製品はポリエステル製モケット(腰掛生地)、カーテン、タイルカーペットが採用されています。

Voice

住江織物(株)
車両営業部 大阪車両営業グループ
龍 啓介

25年ぶりの新型特急として、西武鉄道(株)様、妹島和世デザイナー様、日立製作所様共同で開発された「Laview」には、これまでにない新しい特急車両をつくるという強い思いが込められています。当社製内装ファブリックも何度も試作を重ね、細部までこだわったモノづくりとなっています。

明るく柔らかい車内空間を実現するために、社内一丸となって開発に挑みました。お客様から長く愛される車両製造の一助になれたと嬉しく感じており、完成した車両に乗る際には、私も一利用者として西武鉄道(株)様のこだわりを感じたいと思います。

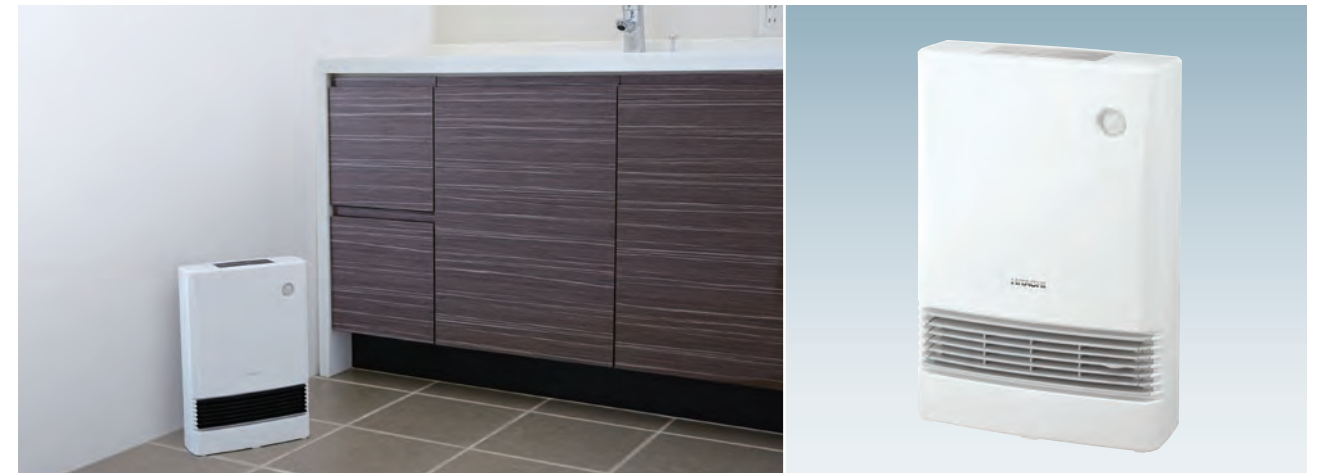
Voice

西武鉄道(株)
鉄道本部 車両部 車両課 主任
牛塚 勝也 様

10000系特急車両のニューレッドアローから四半世紀ぶりとなる001系Laviewは「今までに見たことのない新しい車両」をコンセプトに、世界的に活躍される建築家・妹島和世氏とともに開発しました。

明るい白色を基調とした室内に、温かみのある黄色配色の座席シートと、落ち着いた色のあるグレー調の客室窓のカーテンと、メンテナンスしやすいタイルカーペットの床材としました。そのなかでも座席シートは黄色のなかにグレー調も加え、退色しにくいモケット素材に仕上げていただきました。その結果、身体を優しく包み込む丸みのあるシートデザインに相まって、世界に一つだけの特色のある可愛い「今までにない」デザインに出会えました。

機能資材関連納入実績



日立グローバルライフソリューションズ(株) セラミックファンヒーターに消臭フィルターが新採用

日立グローバルライフソリューションズ(株)では、お客様の暮らしに寄り添い、高いデザイン性や機能を有した製品づくりを推進されています。

そのような取り組みのなか、同社のセラミックファンヒーターに、当社のトリプルフレッシュ®バイオフィルターが新たに採用されました。同社のセラミックファンヒーターはコンパクトで場所を取らないことから、トイレ・脱衣所・

玄関など家庭の様々なシーンでの活用が想定されます。このたび採用されましたトリプルフレッシュ®バイオフィルターは、最大限消臭効果が発揮でき、従来品よりもコンパクトな機体と相性がよい新設計としています。トリプルフレッシュ®バイオフィルターは、同社からも高い評価をいただいております。今後も採用いただけるよう引き続き取り組みます。

Voice

住江織物(株)
機能資材事業部 東京営業部
小森 弘大

日立グローバルライフソリューションズ(株)様のセラミックファンヒーターはコンパクトな機体の特徴となっており、従来のトリプルフレッシュ®バイオフィルターでは厚みと圧損に問題があり対応できませんでした。そこで、新たに薄型低圧損フィルターの開発をスタートさせました。タイトな開発期間のなか様々な課題に直面しましたが、中国の基材工場を訪問して直接原因の究明と対策を行った結果、無事に納品することができました。多くの関係者方にご協力いただき採用に繋がったこと、心から感謝しております。

今後も常に挑戦する姿勢を忘れず、積極的な商品開発に取り組んでいきたいと思っています。

Voice

住江織物(株)
テクニカルセンター 機能加工開発G
濱崎 孝浩

本フィルターは従来の空気清浄機などに使用していた紙ベース基材(材料)とは異なる基材を使用した初めての部材です。

開発としては、フィルター自身がファンモーターに負荷をかけず、かつ消臭効果を高められるかが課題でした。従来の紙基材では圧損が高く負荷がかかるため、新基材の探索、最適な消臭剤の選定および加工方法を検討し、低圧損なフィルターを作製することができました。また、量産試作時には外観に問題が発生しましたが基材メーカーおよび製造部と連携して原因究明・対策に努め、無事に納品することができました。今後もお客様のご要望にお応えする商品の開発を目指していきます。

社会への取り組み

お客様への価値創造～顧客満足のさらなる向上

インテリア関連納入実績



ホテルニューオータニの“ザ・メイン”1階 宴会場階が別注タフテッドカーペットでリニューアル

日本を代表するホテルであるホテルニューオータニは、東京オリンピックがあった1964年に国際ホテルとして開業しました。数々の国際会議の会場に選ばれるなど、まさに日本の首都「東京」を代表するホテルの一つとして親しまれています。そのホテルニューオータニの本館ザ・メイン1階の宴会場階のカーペットが、昨年の2階ロビー階のリニューアルに続き、18年ぶりに敷き替えられました。各国の要人、VIPを数多くお迎えしてきた宴会場

玄関から、国内でも有数の集客を誇る宴会場までの通路のカーペットが一新され、黒をベース色に鮮やかな赤と緑が映える“枯山水”の和風柄に変わりました。「国際都市ホテル」であるホテルニューオータニでは、宴会場階においても常に人の往来があります。そのため工事はすべて夜間に行い、工期は2週間にわたりました。苦勞の甲斐があり、お客様からの評判もよいと、お施主様にもご満足いただいています。



Voice

(株)スミノエ
東日本支社第2ブロック
大熊 勝

ホテルニューオータニ様と当社は、40年を超えるお付き合いがあります。今回のリニューアル工事ではスミノエの営業マンとして、過去に担当された諸先輩方の実績に恥じないようなカーペットを納めることができました。現場はホテルの1階玄関に面しており、数多くのお客様の往来があります。したがって、宿泊されているお客様は当然のことながら、スミノエの搬入作業員、施工作業員の安全を十二分に注意し、慎重に工事を進めました。数々のカーペット責任施工の工事のなかでも特別に大変な工事でしたが、エキゾチックな色使いのカーペットが無事敷き詰められたときは大変嬉しく思いました。

Voice

ホテルニューオータニ
施設部
ご担当者様

当ホテルは外堀通りを隔てて赤坂御用地、迎賓館の隣にあり、都心にありながらも広大な緑に囲まれた場所に位置しています。このたび1階宴会場階のカーペットを18年ぶりに敷き替えしました。「新日本型国際都市ホテル」として、1964年の東京オリンピック開催に合わせて開業した私どものホテルが、来年度再び世界各国からお客様をお迎えするに相応しいカーペットを採用したいと考え、お付き合いが長く信頼のおけるスミノエ様にカーペット製作と敷き替えを依頼しました。都内でも屈指の広さを誇る当ホテルの宴会場階が、洗練された空間へと生まれ変わり、お客様からも大変ご好評いただいております。また、設備管理の観点からもよりリニューアルになったと思っています。

産業資材関連納入実績



トヨタ自動車(株) RAV4に内装材が採用 (Adventure / X / HYBRID Xグレード)

現在、日本でも乗用車の売れ筋となっているクロスオーバー SUV、その元祖とも言えるトヨタRAV4の5代目モデルが発売となりました。4代目RAV4は日本では販売されていませんでしたが、世界的なSUV人気の流れもあり、この新型モデルから日本での販売が再開されました。外観デザインは八角形を2つ組み合わせた「クロスオクタゴン」テーマのメリハリのある造形で、外板色は2トーンを

含む合計12パターンのカラー展開となっています。内装材では、X/HYBRID Xグレードのシートメイン材に当社製品のエンボス加工ファブリックを、また、Adventureグレードの帯状アクセント材に当社製品のグレースコードをご採用いただきました。



Voice

スミノエ テイジン テクノ(株)
開発センター 設計開発部
木戸 優哉

住江織物グループ各部署、協力工場が一体となって、よりよい商品をお届けできるよう、開発に取り組んできました。この商品は4つのテーマ「織物を使用」「多色表現」「省資源設計」「価格対応」に基づいたモノづくりとなっています。シートメイン材に使用できる上記内容を満たしつつ、かつメーカー要望の物性スペックを満たすという大変ハードルの高い開発でしたが、試作を重ね性能の安定化、製織・加工条件の玉成を経て、開発開始から約5年 dengan 量産となり、設計担当者として嬉しく思います。



Voice

スミノエ テイジン テクノ(株)
開発センター デザイン部
中林 一則

カーインテリア質感のさらなる向上に貢献するため、細部にも徹底的にこだわってデザインしたシートファブリックです。RAV4のシート材開発は、「車室内のアイコンパターンと共通性を持たせる」をテーマに始まりました。単に他部品と同パターンを使うのではなく、エンボス加工が映える工夫をしています。ファブリックもエンボスパターンが活きるコントラストを追求しました。開発に関わったみなさまのご協力で、精度感とラグッドさを併せ持つRAV4のファブリックを作ることができ、貴重な体験となりました。

社会への取り組み

地域社会とのコミュニケーション(社会貢献活動)

住江織物グループでは、各事業所単位で地域に根差した社会貢献活動を行っています。今後も継続的に取り組んでいきます。

地域清掃活動

周辺地域の美化を目的に、各事業所で清掃活動に参加しました。従業員一人ひとりが環境への高い意識を持ち、継続的に活動に参加しています。



帝人テクロス(株)
「ごみゼロ運動いなざわ」
2019年5月 45名参加



住江織物(株)奈良事業所
工場外周の美化活動
2019年5月 19名参加

「御堂筋イルミネーション」への協賛

御堂筋イルミネーションは、大阪のシンボルストリート御堂筋の梅田から難波まで4kmにわたって実施される大規模なイルミネーションイベントです。当社は、地域に根差す企業として、2017年度より寄付を行っています。今後も御堂筋の活性化のための支援に取り組んでいきます。



こども本の森 中之島基金への協力

大阪の子供たちの創造性、感性を育む場として2020年3月開館予定の「こども本の森 中之島」への寄付を行いました。日本の将来を担う子供たちの可能性を伸ばし、心豊かな育成を願って支援しています。

教育機関との連携(進路講話)

丹後テクスタイル(株)では、地元の京都府立網野高等学校間人(たいざ)分校の3年生を対象に、進路学習の一環である進路講話を行いました。「仕事を通して社会に参加する」というテーマのもと、高校生活や働く上で大切なことについて伝えました。参加した生徒たちからは、「挨拶で印象が変わる」「我慢する力を身に付ける」「諦めない」などの感想が寄せられました。そのほか、インターンシップの受け入れや職場体験なども実施しています。



京都府立網野高等学校
間人(たいざ)分校での
進路講話

Suminoe Textile of America Corporation(STA)での社会貢献活動

STAは、地元地域にある『Spartanburg Dominion Boys' Home』と呼ばれる、現在10歳から18歳までの32人の少年が暮らしている施設に毎年寄付を行っています。この施設は身寄りがなかったり、また家庭内において虐待を受けた少年たちのために、「少年が幼年時代を見つけられる家」をコンセプトに掲げ、安全に日常を過ごせるようサポートを行っており、教会やそのほかから支援を受け成り立っています。そのほかにもGaffney地域の小学校には学用品とブックバッグを寄贈しました。STAは今後も子供たちの支援をしていきます。



受け取ったブックバッグ



Boys' Home感謝状



学用品

環境への取り組み

環境マネジメント~KKR+Aのテーマのもとに



環境基本理念

近年、地球環境の悪化が急速に進んでいます。その地球に暮らしている私たち人類が地球環境の維持と改善に努め、美しい自然を子孫に譲り渡すことは人類共通の使命であります。住江織物はこのことを認識し、従業員全員が環境保全に積極的に取り組むことによって、住みよい豊かな社会をつくります。

住江織物グループ環境対策宣言

1998年発表、2009年に改訂した7つの宣言のもと、環境対策を推進しております。

宣言1 室内環境を改善し、快適な空間を実現します。

タバコ臭やペット臭、生活悪臭に加え、シックハウスの原因となるホルムアルデヒドなどを吸着・分解して消臭する「トリプルフレッシュ®加工」のカーペット、カーテン、壁紙、車両内装品や、アレルゲンの動きを抑制する「アレルブロック®加工」、お肌に優しい「スキンケア加工」などにより、安心・快適な空間を実現します。

宣言2 循環型社会に対応し、リサイクル材を積極的に採用します。

ペットボトルから製造されたポリエステル糸の「スミロン®」、使用済みタイルカーペットを回収し、リサイクルする「タイルカーペットリサイクルシステム」、リサイクル性に優れた鉄道車両用シートクッション材「スミキューブ®」、ビールケースなどから再生されたPP樹脂の簡易二重床「SEライト」などリサイクル材を積極的に活用して環境保全と資源の有効利用に取り組んでいます。

宣言3 CO2削減と環境負荷を低減させる製品を提供します。

地球温暖化防止に向けた低炭素社会実現の一端を担うため、原料、製造、輸送、使用、廃棄といった製品のライフサイクル全体にわたって、環境負荷を総合的かつ定量的に評価するライフサイクルアセスメント(LCA)手法に基づく「ローカーボン製品」を開発・提供します。

宣言4 安心・安全な素材を使用し、健康と環境に配慮します。

法的な規制はもちろん、シックハウスの原因となるVOCや廃棄時に問題となる重金属などを含まない安心・安全な製品提供とともに、ウール・麻・綿などの天然素材も積極的に活用します。また、火災時に有毒ガスの発生が少ないオレフィン系床材などで、人に優しい製品づくりに努めます。

宣言5 製造から製品に至るまで、省資源・省エネルギーに取り組めます。

製造時における材料、副資材、水、エネルギーのロス低減による資源の有効活用を図るとともに、省エネ設備の更新推進、品質向上、製品の軽量化、容器・梱包の簡素化、減量化を図ります。また、輸送効率、使用効率、廃棄効率を追求し、省資源・省エネルギー化を推進します。

宣言6 最新情報に基づき、環境負荷物質の適正管理を推進します。

製品に使用する材料に対して、特定の化学物質の含有に関する制限が、内外ともに強化されています。この対応として、対象製品すべてにわたって確認し、サプライチェーンマネジメント(SCM)の考え方に基づいた使用材料の適正管理を図るとともに、最新の安全性に関する情報入手・把握に努めます。

宣言7 エコを意識した製品を提案・提供します。

製品の見た目や機能面での環境配慮だけでなく、製造の過程で用いる資源やエネルギーなどを最小化し、易リサイクル化、製品の長寿命化、廃棄処理の最適化を見据えた「エコデザイン思想」に基づく、製品およびシステムの提案・提供に努めます。

環境への取り組み

環境マネジメント～KKR+Aのテーマのもとに

行動指針

環境保全を実施するにあたって

- 1

私たちは、企業活動全般にわたって環境を汚染することのないように配慮しつつ、積極的に省エネ・省資源・リサイクルを推進します。
- 2

私たちは、環境に配慮した技術と商品を開発することにより、生産から販売、廃棄に至るまで商品ライフサイクルを通して環境保全に努めます。

① 省エネ、省資源技術の開発

② リサイクル技術・リサイクルシステムの開発

③ 環境負荷がより少なく、安全性がより高い原材料への置き換え技術および商品の開発

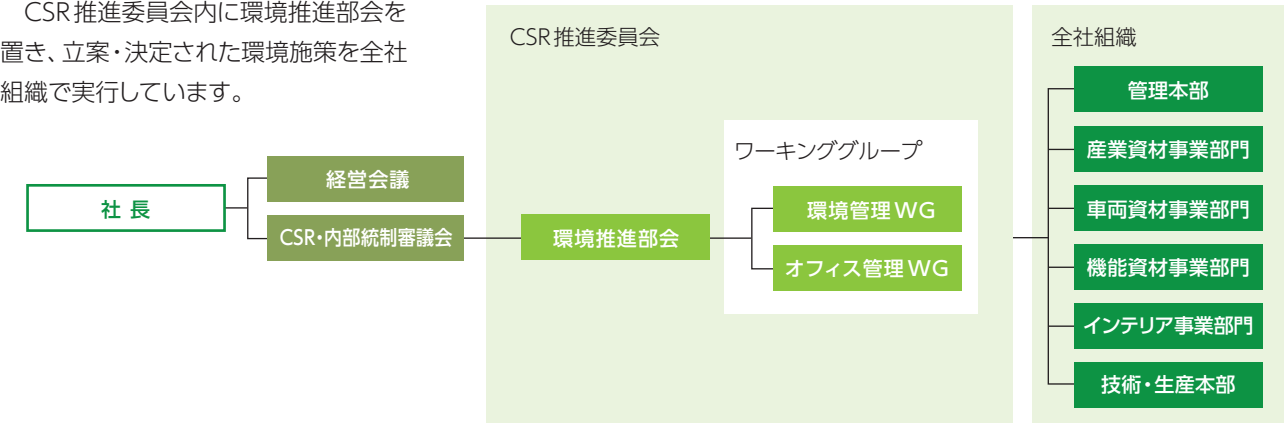
④ 室内環境を改善し、健康および快適性に貢献する商品の開発
- 3

私たちは、地域社会とのコミュニケーションを通じて社会との共生をはかり、全従業員が小さなことでもできることから行動を起こします。
- 4

私たちは、環境保全推進のため社内体制の整備と、全従業員の環境意識の高揚に努めます。

環境推進体制

CSR推進委員会内に環境推進部会を置き、立案・決定された環境施策を全社組織で実行しています。



環境マネジメントシステムの導入状況

2000年度に生産事業所である奈良事業所がグループとして初めてISO14001認証を取得。その後順次導入し現在国内の5生産事業所においてISO14001の認証を、1事業所でエコ・アクション21の認証を取得しています。

	ISO14001：2015			エコ・アクション21：2009
	奈良事業所・滋賀事業所	帝人テクロス（株）	尾張整染株式会社・石川工場	丹後テクスタイル（株）
審査登録機関	日本規格協会	日本品質保証機構	日本品質保証機構	持続性推進機構
登録番号	JSAE 235	JQA-EM1519	JQA-EM3114	0009522
登録	2000年5月	2001年4月	2003年3月	2013年7月
更新	第6回済（2018年5月）	第6回済（2019年4月）	第5回済（2017年7月）	第3回済（2019年7月）

第5次中期行動目標 — エコチャレンジ2020 —

環境との関わり

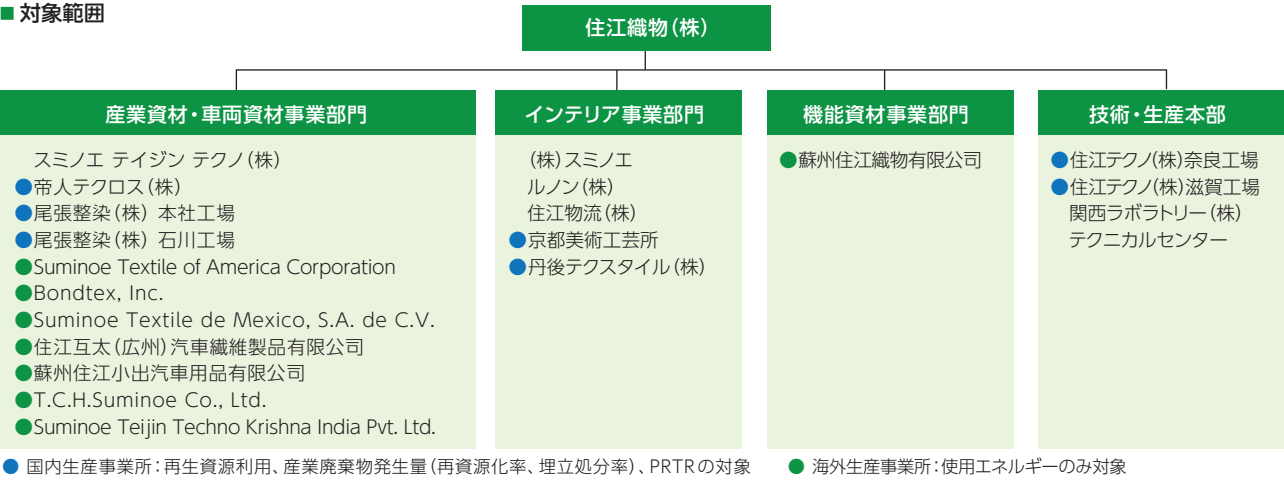
当社グループの事業と環境とは、製品の開発設計から資材調達・生産・販売・物流、そして使用・廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体を通して、また日頃の事業活動においても深い関わりを持っています。

当社グループでは、製品のライフサイクル、また事業活動全体が環境に与える影響を把握するよう努め、環境負荷低減に取り組んでいます。特に、使用済みタイルカーペットから再生された塩ビパウダーや、ペットボトルから再生された原綿やポリエステルペレットなどの再生材料を積極的に使用するなど、環境にやさしい製品づくりを進めています。CSR活動においても環境配慮に重点を置き、“エコチャレンジ2020”の目標を掲げ、全グループで取り組んでいます。

エコチャレンジ2020（第5次中期行動目標）

環境に関する第5次中期行動目標として、エコチャレンジ2020を設定しています。2018～2019年度の2カ年を行動期間として取り組みを進めています。

対象範囲



● 国内生産事業所：再生資源利用、産業廃棄物発生量（再資源化率、埋立処分率）、PRTRの対象 ● 海外生産事業所：使用エネルギーのみ対象

期間：2018年度～2019年度（2年計画、データ期間2018年6月～2020年5月）

行動目標と2018年度実績

		取り組み項目	最終目標値	基準年度	2018年度目標値	2018年度	評価
1	地球温暖化防止	使用エネルギーの削減	2%削減（原単位）	2017年	-1%	-4.4%	○
		社有車の燃料使用量の削減	2%削減（原単位）	2017年	-1%	-5.1%	○
2	省資源	再生資源利用率の向上	2%向上	2017年	1%	1%	○
3	廃棄物の3R	産業廃棄物発生量の削減	2%削減（原単位）	2017年	-1%	2.7%	△
		再資源化率の向上	65%以上	—	65% 以上	65.9%	○
		埋立処分率の低減	10%以下	—	10% 以下	19.0%	△
4	環境汚染防止	大気汚染防止（NOx排出量削減）	2%削減（原単位）	2017年	-1%	-3.7%	○
		PRTR 取り扱い量の削減	2%削減（原単位）	2017年	-1%	4.4%	△
5	グリーン活動推進	事務用品のグリーン購入率向上	95%以上	—	95% 以上	85.2%	△
6	製品のLCA評価促進	LCA評価 12アイテム	—	—	6 アイテム	0 アイテム	×
7	環境に配慮した技術の開発促進	2件	—	—	1件	1件	○
8	環境に配慮した製品の開発促進	6件	—	—	3件	3件	○
9	事業活動における生物多様性の保全活動	—	—	—	—	—	—
10	海外生産事業所における環境負荷の集約と低減	全海外生産事業所のデータ集約	2017年	2017年	+1社	0社	×

原単位：分母を連結売上高にして計算する。
換算係数：CO₂排出量は温対法に基づく排出係数で算出。NOxの換算係数はエコ・アクション21 2002年版で算出。
海外生産事業所のCO₂排出量は、GHGプロトコルの2007年の各国ごとの排出係数で算出。

環境への取り組み

エコチャレンジ2020(2018年度実績)

エコチャレンジ2020では、2017年度のデータを基準としています。

初年度の2018年度は、地球温暖化防止や大気汚染防止の取り組みで目標を達成しています。

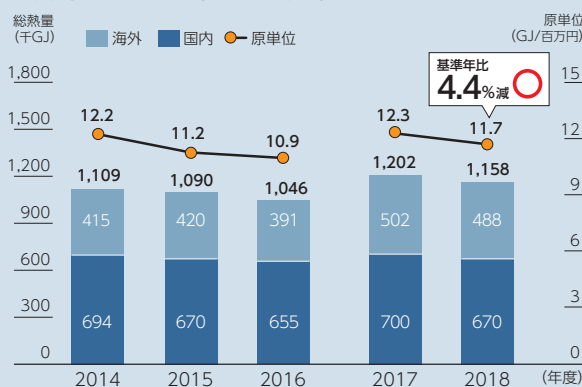
地球温暖化防止

使用エネルギーの削減

省エネ活動の成果を、使用エネルギーの熱量換算値※で確認しています。海外事業所は基準年の2017年以降、8社を算入しています(2016年以前は5社)。

※ 熱量換算値: 単位=GJ[ギガジュール]

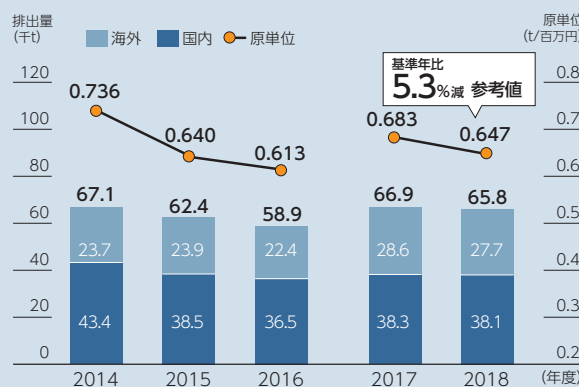
■使用エネルギー(熱量換算値)の推移 [海外含む]



[参考データ]CO₂排出量の削減

企業活動が地球温暖化に及ぼす影響をCO₂排出量で確認しています。CO₂排出量、原単位とも2017年比減少しています(海外:2017年以降=8社、2016年以前=5社)。

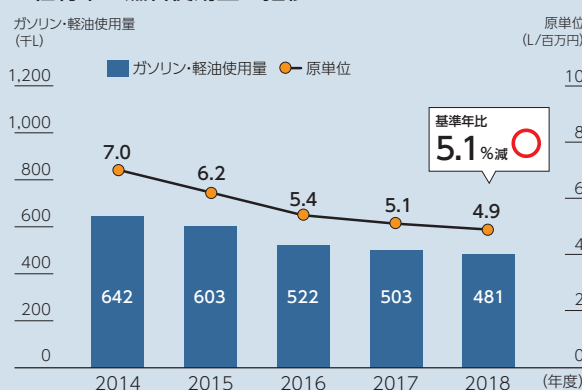
■CO₂排出量の推移 [海外含む]



社有車の燃料使用量の削減

エコドライブの推進、また、エコカーへの積極的な転換を進めるなど、社有車の燃料使用量の削減に努めています。過去5年間順調に推移しています。

■社有車の燃料使用量の推移

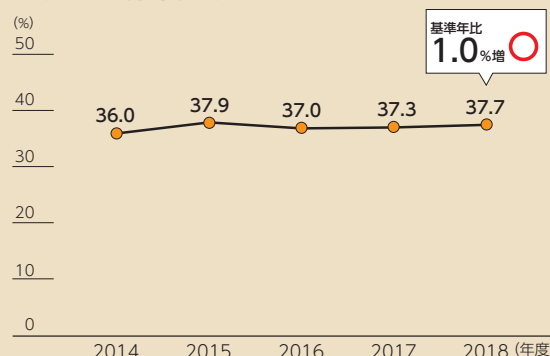


省資源

再生資源利用率の向上

再生資源を原材料に積極的に投入、省資源化を進めています。

■再生資源利用率の推移

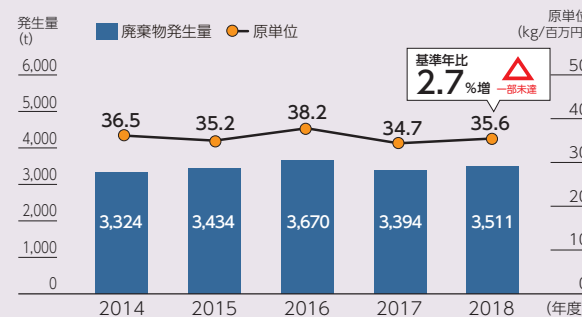


廃棄物の3R

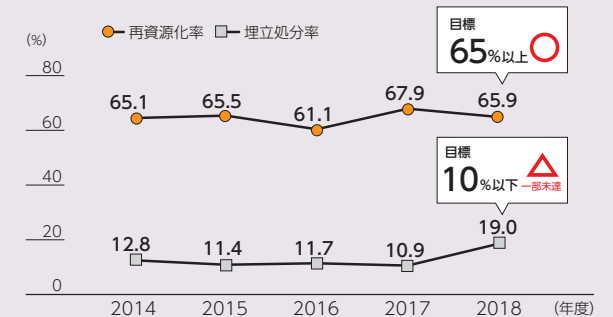
産業廃棄物発生量の削減、再資源化率の向上・埋立処分率の低減

生産に投入される材料のロス削減や不適合品の撲滅、また資源の有効活用など、廃棄物発生抑制に努めています。今年度、廃棄物処理の状況などに変化があり、産廃発生量と埋立処分率に影響しています。

■産業廃棄物発生量の推移



■再資源化率・埋立処分率の推移

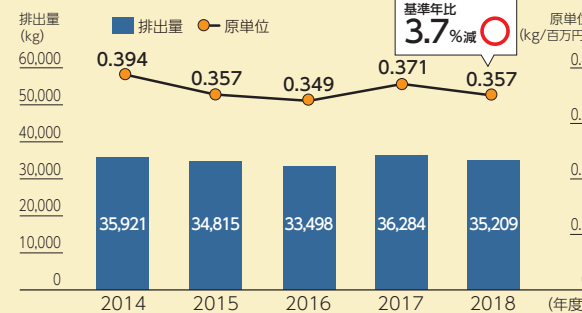


環境汚染防止

大気汚染物質排出量の削減

大気汚染物質には、窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、粉じんなどがありますが、代表としてNOxを記載しています。NOxの排出量は、エコアクション21の2002年版の低減対策が行われていない施設の排出係数で算出しています。

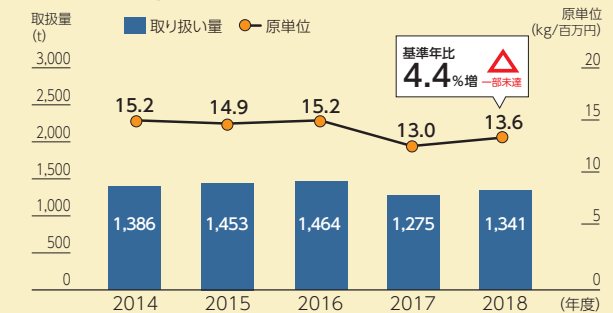
■NOx排出量の推移



PRTR取り扱い量の削減

難燃剤のDBDE(デカブロモジフェニルエーテル)やフッ素系撥水剤のPFOA(ペルフルオロオクタン酸)などが各種規制により将来的に使用制限されるため、より安全な代替物質に置き換えつつあります。

■PRTR取り扱い量の推移

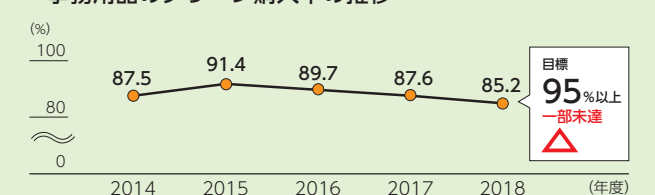


グリーン活動推進

事務用品のグリーン購入率向上

資源採取から廃棄に至る、ライフサイクル全体にわたる環境負荷の低減を考慮した物品などの、積極的な購入に努めています。

■事務用品のグリーン購入率の推移



環境への取り組み

エコチャレンジ2020(2018年度実績)

製品のLCA※評価促進

製品のLCA評価促進（目標6アイテム）

製品のLCA評価体制を整え、2015年度より自社内で評価を行っています。

2018～2019年度の2ヵ年で12アイテムの評価を目標に掲げていますが、2018年度は新規対象製品がなく、評価0アイテムとなりました。

※ LCA：製品の原材料調達から、生産、流通、使用、廃棄に至るまでのライフサイクルにおける投入資源、環境負荷およびそれらによる地球や生態系への潜在的な環境影響を定量的に評価する手法、ライフサイクルアセスメントの略称。

0アイテム
未達
×

環境に配慮した技術・製品の開発促進

環境に配慮した技術の開発促進（目標1件）

PHフィルムのUVインクジェット印刷技術

鉄道車両などに用いられる環境に配慮した床表示フィルムに、高精細で耐光性に優れた印刷を可能にしました。

1件
目標達成
○

環境に配慮した製品の開発促進（目標3件）

- ① 鉄道車両用シートクッション材「スミキューブ®」に新樹脂/バネ材「スミキューブエア」を組み合わせた「ハイブリッドクッション材」
- ② 軽さとコンパクトさを追求し、家庭洗濯が容易な超軽量カーペット「Caruru(カルル)」
- ③ リサイクル素材を表面に加工し、12種類の物質を消臭する「空気を洗う壁紙® オレフィンプラス」

3件
目標達成
○

海外生産事業所における環境負荷の集約と低減

海外生産事業所のデータ集約

2018年度に新規に環境関連データ集約を開始した海外事業所は0社となりました。

新規集約
0社
×

事業活動における生物多様性の保全活動

2011年度に生物多様性の保全活動について取り組み方針を策定し、2013年度から事業所ごとに特色のある活動を実施しています。

取り組み方針

① 事業活動が生物多様性に及ぼす影響の低減

- ・ 生産事業所内および周辺での生物多様性のモニタリング調査を行う。
- ・ 植樹を行う場合は、外来種ではなく、地域に自生している在来種を使う。
- ・ 事業所周辺の清掃を定期的に行い、草刈りなどで環境を整備する。
- ・ 生物資源を原材料として使用する場合は、その持続可能性を確認する。
- ・ リサイクル原材料を使用した製品開発とリサイクルシステムの構築を積極的に行う。
- ・ 環境マネジメントシステムに生物多様性の保全活動を組み入れる。
- ・ 事業所ごとに取り組める新たな生物多様性の保全活動を推進する。

② サプライチェーン全体での生物多様性への影響低減に向けたお取引先様への活動

- ・ グリーン調達ガイドラインで、お取引先様への生物多様性保全活動の協力を依頼する。

③ 社会貢献活動

- ・ 森林保全活動を行う団体を支援する。
- ・ みどりの募金活動に協力する。

取り組み実績

〈住江織物(株)奈良事業所〉

事業所の南を流れる岡崎川周辺を桜並木の遊歩道に整備する「安堵桜友会」に参加し、桜の手入れなどに協力しています。

〈住江テクノ(株)滋賀工場〉

工場敷地内にて、甲賀市の花であり、人と自然の共生の象徴といわれる「ささゆり」の増殖に取り組んでいます。

〈尾張整染(株)本社工場〉

木曽川などでホタル飼育に取り組む「一宮平成ホタルの会」に賛助会員として参加しています。

c o l u m n

鉄道車両内装の歴史展(明治～大正・昭和のモケット)を開催しました

住江織物(株)が日本で初めて開発を手掛け、今日に至るまで製造販売してきた鉄道車両用モケット(シート地)にスポットをあてた企画展を開催しました。

＜大阪開催＞ 期間：2019年4月22日(月)～8月31日(土)
場所：住江織物株式会社
本社ビル4Fショールーム内
＜東京開催＞ 期間：2019年9月17日(火)～12月26日(木)
場所：住江織物株式会社
BR五反田ビル3F東京ショールーム内



明治から大正・昭和・平成と時代背景を追いながら、これまで手掛けた稀少なモケットの実物をご紹介させていただきました。

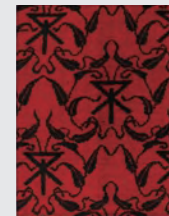
特に、大阪市市電の市章「滯つくし」をモチーフにしたモケットは、当社にて保管してあるなかで、国産最古のものです。来場者の方が驚かれるほど、当時の鮮やかな色彩を今に伝えます。

近年のモケットの展示では、旧国鉄0系新幹線やJR・私鉄各社でご採用いただいたものを展示しており、実際に手に触れてウールやポリエステルなど素材の違いを体感していただきました。

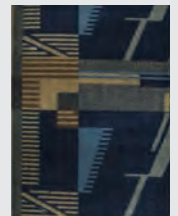
また、鉄道車両以外に大正・昭和初期の船舶向けモケットも同時に展示しました。国際線の客船に使用された高級感のあるデザインが当時の優雅な船旅を連想させます。

会期中は、全国各地から大勢の方に見学にお越しいただき、非常に好評であったため大阪会場の会期延長と、東京での開催も決定しました。

多くの方々に鉄道車両内装材の歴史とともに、住江織物グループのオンリーワンを目指すチャレンジ精神の強さを知っていただくよい機会となりました。



大阪市電のシート地



大阪商船池上丸のシート地

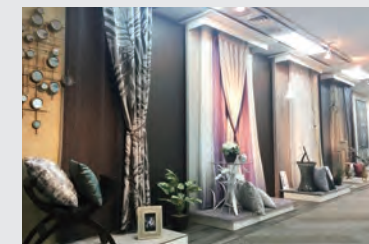
大阪SIP、東京SIP(ショールーム)

歴史展や、セミナーなどショールームを活用した事業を通じ、インテリアの情報発信を行うとともに、多様な文化貢献活動、社会貢献活動に取り組んでいます。



大阪SIP

大阪市中央区
南船場3-11-20 4F
TEL
06-6251-9380
FAX
06-6251-9959



東京SIP

東京都品川区
西五反田2-30-4
BR五反田ビル3F
TEL
03-5434-6545
FAX
03-5434-2315

編集後記

「CSRレポート2019」をお読みいただき、ありがとうございます。

当社グループのCSR活動においての考え方や取り組み実績について整理し、わかりやすく表現しました。国際的な社会的課題の要求が高まるなか、信頼される企業を目指し、これからも一層CSR活動の着実な実践を行います。つきましては、今後の参考とさせていただくため、当社グループのCSR活動について忌憚ないご意見をアンケートにてお寄せいただけますと幸いです。

CSRレポート作成メンバー一同